
ふ じ み 野 市

川 崎 遺 跡 第 41 次

街路整備工事（埋蔵文化財発掘調査報告書作成業務委託）
埋蔵文化財発掘調査報告

2 0 1 6

埼 玉 県

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

序

首都圏に位置する埼玉県は関東平野のほぼ中央にあり、都心にも近い立地条件から近年の発展には著しいものがあります。

このような成長を支えるためには、社会基盤の整備が不可欠です。その中でも道路については、県民の日々の生活や、経済活動などの点から、次世代に引き継ぐべき県民共有の財産として、積極的に整備を進めているところであります。

県道並木川崎線につきましても、地域の幹線道路として位置づけ、車道を整備し、歩道を拡幅するなど、安全、安心な県民生活の維持・管理に努めてまいりました。

街路整備事業地内には、周知の埋蔵文化財包蔵地が多数存在し、今回発掘調査を実施した川崎遺跡もその一つです。発掘調査は、街路整備事業に伴う事前調査であり、埼玉県の委託を受け、当事業団が実施いたしました。

発掘調査の結果、縄文時代早期から前期の竪穴住居跡や炉穴と呼ばれる施設などに加え、奈良時代から平安時代にかけての生活の跡も残されていることがわかりました。

本書は、これらの発掘調査成果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護並びに普及・啓発の資料として、また学術研究の基礎資料として、多くの方々に活用していただければ幸いです。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査の諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課をはじめ、ふじみ野市教育委員会並びに地元関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

平成28年3月

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長 樋 田 明 男

例 言

1. 本書はふじみ野市に所在する川崎遺跡（第41次調査）の発掘調査報告書である。
2. 遺跡の略号と代表地番、発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。
川崎遺跡（KWSK）
ふじみ野市大字川崎218-1番地他
平成26年8月7日付け 教生文第2-31号
3. 発掘調査は、街路整備工事にともなう埋蔵文化財記録保存のための事前調査である。川崎遺跡の調査は、埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が調整し、埼玉県の委託を受け、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
4. 各事業の委託事業名は、下記のとおりである。
発掘調査事業（平成26年度 第41次）
「街路整備工事（埋蔵文化財発掘調査業務委託）」
整理報告書作成事業（平成27年度）
「街路整備工事（埋蔵文化財発掘調査報告書作成業務委託）」
5. 発掘調査・整理報告書作成事業はI-3に示した組織により実施した。
川崎遺跡第41次の発掘調査は、平成26年8月1日から平成26年10月31日まで実施し、上野真由美、松浦誠が担当した。
整理報告書作成事業は、平成28年1月4日から平成28年2月29日まで実施し、大屋道則が担当した。
平成28年3月25日に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第420集として印刷・刊行した。
6. 川崎遺跡の発掘調査における基準点測量は、株式会社ソレイユに委託した。
7. 発掘調査における写真撮影は上野、松浦が行い、出土遺物の写真撮影は大屋が行った。
8. 出土品の整理・図版作成は整理担当者が行った。
9. 本書の執筆は、I-1を埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課、縄文土器、土製品、まどめのそれぞれ一部を上野真由美が行い、その他を大屋が行った。
10. 本書の編集は大屋が行った。
11. 本書にかかる諸資料は平成28年4月以降、埼玉県教育委員会が管理、保管する。
12. 発掘調査や本書の作成にあたり、下記の機関から御教示、御協力を賜った。記して感謝いたします（敬称略）。
笹森健一 高崎直成 鍋島直久
ふじみ野市教育委員会

凡 例

1. 川崎遺跡第41次調査におけるX・Yの座標は、世界測地系国土標準平面直角座標第IX系（原点北緯36° 00′ 00″、東経139° 50′ 00秒）に基づく座標値を示す。また、各挿図に記した方位は、全て座標北を指す。

C-2グリッド北西杭の座標は、X = -12602.264m、Y = -27857.125m、北緯35° 52′ 58.11210″、東経139° 31′ 40.81873″である。

2. グリッドの設定は10×10mの基本グリッドを設定した。表記は、北西隅を基点として、北から南方向にアルファベット（A、B、C…）、西から東方向に数字（1、2、3…）を付した。

3. 本書の本文、挿図、表、写真図版に記した遺構の略号は、以下のとおりである。

S J…住居跡 S D…溝跡 S K…土壇
F P…炉穴 P…ピット

4. 本書における挿図の縮尺は、以下のとおりである。例外は図中に縮尺とスケールを示した。

全体図 1:300 遺構図 1:30 1:60

土器拓影図 1:3 土器実測図 1:4

大型石器 1:3 小型石器 2:3

土製品 1:1

5. 遺構の規模は、炉跡、出入口施設などが明瞭なものは、主軸と副軸で表示し、それ以外については、長軸、短軸で表示した。

6. 遺物実測図の表記方法は以下のとおりである。

赤彩:網10% 煤、被熱、焼土:網20% 炭化物:
網30% 研磨範囲:平行線 使用痕範囲:「↑」

7. 観察表中の石材名は以下のとおりである。

曜:黒曜石 黒:黒色頁岩 珪:珪質頁岩
頁:その他の頁岩 泥:緑泥片岩 雲:雲母片岩
絹:絹雲母片岩 片:その他の片岩 砂:砂岩
安:安山岩 緑:緑色岩 閃:閃緑岩
ホ:ホルンフェルス チ:チャート 軽:軽石
石:石英 滑:滑石 玉:玉髓

8. 遺構断面図に表記した水準数値は、すべて海拔標高（単位m）で示した。

9. 遺物観察表の表記方法は以下のとおりである。
法量の単位はcm、（ ）の数値は推定値、[]の数値は現存値、それ以外は計測値を示す。

胎土は土器中に含まれる鉱物等のうち、特徴的なものを記号で示した。

A—赤色粒子 B—白色粒子 C—長石

D—角閃石 E—石英 F—雲母

G—黒色粒子 H—白色針状物質

I—砂粒子 J—片岩 K—小礫

残存率は図示した器形に対する大まかな遺存程度を%で示した。

10. 本書に使用した地形図は、国土地理院発行の1/50000地形図、1/25000地形図、ふじみ野市都市計画図を編集・使用した。

11. 本書に掲載した遺構番号は、原則として調査時のものを採用した。

目次

序		3. 川崎遺跡の基本層序	8
例言		IV 遺構と遺物	9
凡例		1. 縄文時代早期の遺構と遺物	9
目次		(1) 住居跡	9
I 発掘調査の概要	1	(2) 炉穴	11
1. 発掘調査に至る経過	1	(3) 土壙	15
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2	(4) グリッド出土遺物	16
(1) 発掘調査	2	2. 縄文時代前期の遺構と遺物	17
(2) 整理・報告書の作成	2	(1) 住居跡	17
3. 発掘調査・報告書作成の組織	2	(2) 土壙	22
II 遺跡の立地と環境	3	(3) ピット	23
1. 地理的環境	3	(4) グリッド出土遺物	24
2. 歴史的環境	3	3. 古代の遺構と遺物	25
(1) 旧石器時代	3	(1) 住居跡	25
(2) 縄文時代	3	4. 近世の遺構と遺物	30
(3) 弥生時代	4	(1) 畝跡	30
(4) 古墳、奈良、平安時代	5	(2) 溝跡	31
(5) 中世、近世、近代	5	(3) ピット	31
III 遺跡の概要	6	(4) グリッド出土遺物	31
1. 川崎遺跡の概要	6	V 調査のまとめ	32
2. 調査区の概要	8	写真図版	

挿図目次

第1図 埼玉県の地形	3	第12図 第1、3～8号土壙	15
第2図 周辺の遺跡	5	第13図 第1、3、8号土壙出土遺物	16
第3図 川崎遺跡の範囲と既調査範囲	6	第14図 グリッド出土遺物	16
第4図 第41次調査全体図と基本層序	8	第15図 第2号住居跡、出土遺物	17
第5図 第5号住居跡、遺物出土状況	9	第16図 第2号住居跡出土遺物	18
第6図 第5号住居跡出土遺物	10	第17図 第4号住居跡	18
第7図 第1～5号炉穴	11	第18図 第4号住居跡遺物出土状況	19
第8図 第6、7号炉穴	12	第19図 第4号住居跡出土遺物(1)	20
第9図 炉穴出土遺物	12	第20図 第4号住居跡出土遺物(2)	21
第10図 第8～13、15号炉穴	13	第21図 第4号住居跡出土遺物(3)	22
第11図 第8号炉穴遺物出土状況、第14号炉穴	14	第22図 第2号土壙	22

第23図	ピット	23
第24図	グリッド出土遺物	24
第25図	第1号住居跡出土遺物	25
第26図	第1号住居跡(1)	25
第27図	第1号住居跡(2)	26
第28図	第3号住居跡出土遺物	27
第29図	第3号住居跡(1)	27
第30図	第3号住居跡(2)	28

第31図	第6号住居跡	29
第32図	第6号住居跡遺物出土状況	30
第33図	第6号住居跡出土遺物	30
第34図	第1号畝跡	31
第35図	ピット	31
第36図	第1号溝跡	31
第37図	グリッド出土遺物	31

表 目 次

第1表	周辺の遺跡一覧表	4
第2表	川崎遺跡の調査履歴	7
第3表	第5号住居跡出土石器観察表	10
第4表	炉穴一覧表	14
第5表	土壌一覧表	16
第6表	第2号住居跡出土石器観察表	18
第7表	第4号住居跡出土石器観察表	22
第8表	第2号土壌諸元	22
第9表	ピット一覧表	23
第10表	グリッド出土石器観察表	24
第11表	第1号住居跡出土遺物観察表	25
第12表	第3号住居跡出土遺物観察表	28
第13表	第6号住居跡出土遺物観察表	30

写 真 図 版 目 次

図版1	1 調査区1区全景	図版4	1、2
	2 調査区2区全景		第1、3、6、8、9、10、14号炉穴出土遺物
	3～5 第5号住居跡、遺物、炉跡		3 グリッド出土縄文時代早期遺物
	6 第2号住居跡	図版5	1 第2号住居跡出土遺物
	7、8 第4号住居跡		2、3 第4号住居跡出土遺物
図版2	1～8 第1～7、14号炉穴	図版6	1 第4号住居跡出土遺物
	9、10 第8～13、15号炉穴		2 グリッド出土縄文時代前期遺物
	11～18 第1～8号土壌		3、4 第5号住居跡出土遺物
図版3	1 第3号住居跡遺物出土状況		5 第2号住居跡出土遺物
	2 第6号住居跡		6～8 第4号住居跡出土遺物
	3 第1号畝跡		9～14 グリッド出土遺物
	4 第1号溝跡		15、16 第1号住居跡出土遺物
	5、6 第1号住居跡		17～19 第3号住居跡出土遺物
	7 第5号住居跡出土遺物		20 グリッド出土遺物
	8 第1、3、8号土壌出土遺物		

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

埼玉県では、平成24年度から平成28年度の新5か年計画『埼玉県5か年計画—安心・成長・自立自尊の埼玉へ—』において「埼玉の成長を支える社会基盤を作る」という基本目標を掲げ、その一環として地域の生活を支える身近な道路の整備を進めている。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課では、これらの施策の推進に伴う文化財の保護について、従前より関係部局との事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

県道並木川崎線整備事業にかかる埋蔵文化財の所在及び取扱いについては、平成25年9月24日付け川整第592号で、川越県土整備事務所長より生涯学習文化財課長あて、埋蔵文化財の所在及び取扱いについての照会があった。

これに対し、生涯学習文化財課では試掘調査を実施し、埋蔵文化財の有無を確認した。この結果をもとに、平成26年4月1日付け教生文第266号で、川崎遺跡の取扱いについて次のように回答した。

1 埋蔵文化財の所在

工事予定地内には、次の埋蔵文化財包蔵地が存在します。

名称	種別	時代	所在地
川崎遺跡 (No.25-003)	貝塚 集落跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世	ふじみ野市 大字川崎地内

2 法手続

工事予定地内には、上記の埋蔵文化財包蔵地が存在します。包蔵地内で工事着手する場合は、工事に先立ち、文化財保護法第94条の規定による発掘通知を提出してください。

3 取扱いについて

「発掘調査を要する区域」については、工事計画やむを得ず現状を変更する場合には、記録保存のための発掘調査を実施してください。

調査にあたっては、実施機関である公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団と川越県土整備事務所、生涯学習文化財課の三者により工事日程、調査方法、調査期間、経費等について協議が行われた。その結果、平成26年8月1日から10月31日までの期間で発掘調査を実施することになった。

その後、文化財保護法第94条の規定による埋蔵文化財発掘通知が埼玉県知事から提出された。これに対し、記録保存のための発掘調査を実施するよう、埼玉県教育委員会教育長から平成26年5月23日付け教生文第4-75号で通知を行った。

また、同法第92条の規定による発掘調査届が公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出され発掘調査が実施された。発掘調査届に対しての埼玉県教育委員会教育長からの通知番号は、平成26年8月7日付け教生文第2-31号である。

(生涯学習文化財課)

2. 発掘調査・報告書作成の経過

(1) 発掘調査

川崎遺跡は、平成26年度に発掘調査を行った。平成26年8月1日から平成26年10月31日まで、調査面積は419㎡である。

調査の経過は以下の通りである。

平成26年8月初旬に発掘調査事務所を設置し、8月上旬に重機による表土の掘削を実施し、同時に人力による遺構の確認作業に入った。8月中旬からは遺構精査と記録等の作成を行った。

9月上旬には高所作業車による全景の写真撮影を行い、9月中旬には表土の反転を行った。

9月中旬以降は、反転後の新しい調査区域の遺構確認作業を行い、順次、遺構精査、記録等の作成を行った。10月中旬には、再び高所作業車による全景の写真撮影を行い、10月下旬には作業を終了した。

(2) 整理・報告書の作成

整理報告書作成作業は、平成28年1月4日から、平成28年2月29日まで実施した。

1月上旬から出土遺物の水洗、注記を行い、順次、接合、復元作業に着手した。接合、復元が終了した遺物は1月中旬から順次抽出を行い、拓本、実測作業を開始した。遺物の機械実測には3スペース、オルソイメージャーなどを利用した。同時に、実測が終了した遺物については、遺物実測図のトレースを開始し、版下図の作成に着手した。

遺構図の整理は、遺物の作業と並行して1月上旬から行った。図面照合と修正を経て第二原図を作成し、1月中旬からは画像ソフトを用いて遺構図のトレース、土層説明等のデータを組み込んで編集作業を実施し、遺構挿図の版下を作成した。

並行して、1月中旬からは原稿執筆を開始し、1月下旬には、遺物写真撮影、遺構写真図版作成などを実施した。2月中旬には印刷起案を作成し、2月末に入稿、整理作業の終了した遺構図、遺物実測図、写真データ、遺物などの仮収納を行った。

報告書は3月上旬から中旬にかけて3回の校正を経て印刷を行い、3月末に事業団報告書第420集『川崎遺跡第41次』を刊行した。

3. 発掘調査・報告書作成の組織

平成26年度（発掘調査）

理事長	樋田明男	調査部	
常務理事兼総務部長	大嶋紳一郎	調査部長	昼間孝志
総務部		調査部副部長	富田和夫
総務部副部長	瀧瀬芳之	主幹兼調査第二課長	木戸春夫
総務課長	藤倉英明	主査	上野真由美
		主事	松浦誠

平成27年度（報告書作成）

理事長	樋田明男	調査部	
常務理事兼総務部長	木村博昭	調査部長	金子直行
総務部		調査部副部長	細田勝
総務部副部長	瀧瀬芳之	主幹兼整理第二課長	吉田稔
総務課長	安田孝行	主査	大屋道則

II 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

埼玉県は関東平野の中央に位置しており、西側は秩父山地、東側は平地になっている。東側の平地は、丘陵、台地との間に荒川低地をはさんで大宮台地、更に中川低地をはさんで下総台地の一部を取り込んでいる。秩父山地に連なる丘陵と台地の傾斜は、南西から北東であり、低地と大宮台地は、北西から南東に傾斜している。

川崎遺跡は、東武東上線福岡駅の北約2kmのふじみ野市北部に位置している。ふじみ野市域は武蔵野台地縁辺部と荒川の沖積低地を含んでいるが、川崎遺跡は武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出したいわゆる川崎台に立地し、北部には台地崖線に沿って新河岸川が東流している。

遺跡は500m×500m程度の比較的大きな範囲に残されているが、今回の第41次調査の調査区は遺跡の北東側に位置し、標高は台地で最も低く約8mである。

2. 歴史的環境

川崎遺跡の位置する武蔵野台地縁辺部、川崎台周辺では、台地上を中心として、縄文時代と古墳時代から奈良、平安時代に至る数多くの遺跡が分布している。

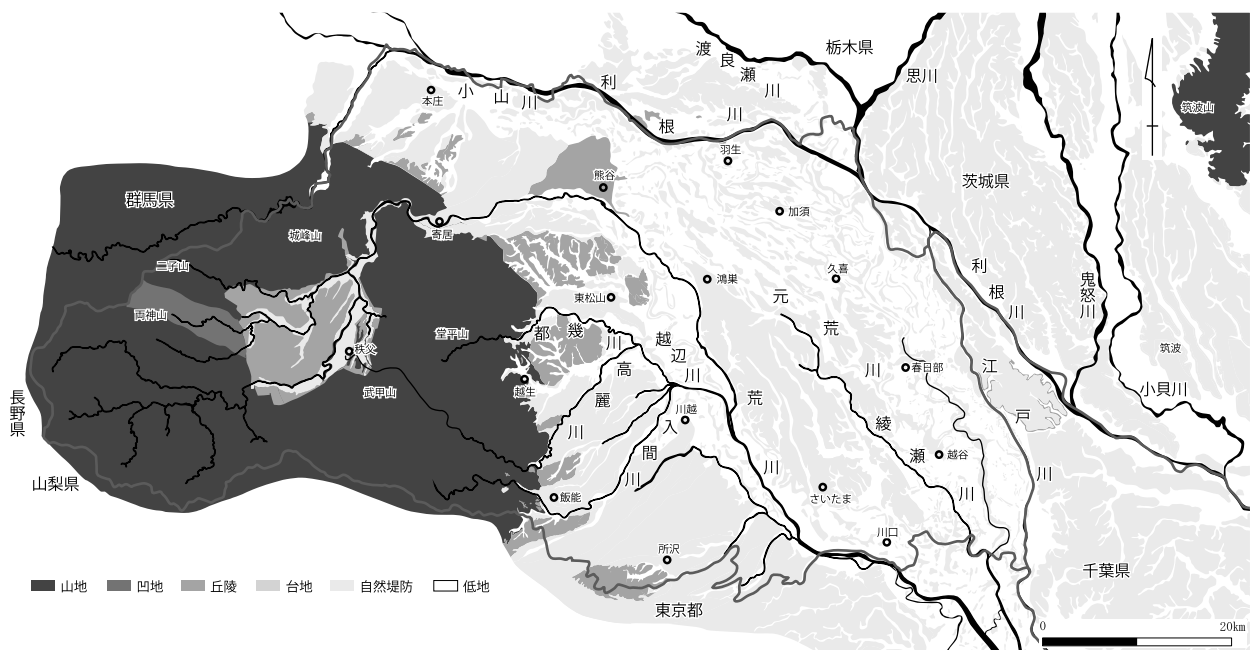
(1) 旧石器時代

川崎遺跡の周辺地域では、旧石器時代の遺物は礫群を伴うIV層とVI層の石器群が比較的多く見つかっている。代表的なものは、東台遺跡、西ノ原(33)、本村遺跡などである。

(2) 縄文時代

縄文時代では、比較的多くの遺跡が存在している。草創期では、富士見市ハケ上遺跡が著名で、当該期の土器、石器がまとまって出土している。

早期の遺跡は少なく、今回報告する川崎遺跡などで住居跡、炉穴などが検出されている。前期では、花積下層式期の遺跡として台地の縁辺部に、川崎遺跡、打越貝塚などが見られる。前期でも同様な立地条件で、黒浜式成立期の長宮遺跡(8)、



第1図 埼玉県の地形

黒浜式期の滝遺跡(7)などがあげられる。諸磯式期では、鷺森遺跡(27)が著名である。前期末は遺跡が激減するが、自然堤防の下から土器片が検出される事例があり今後の資料の増加が期待される。

中期では初頭の集落として亀居遺跡(16)、勝坂式期から加曽利E式期の集落として西ノ原遺跡(33)、東台遺跡、ハケ遺跡(2)があげられる。

後期や晩期の遺跡は非常に少なく、富士見市打越遺跡、正網遺跡など台地下の低地部分に存在していることが予想される。

(3) 弥生時代

弥生時代については、砂川掘と綾瀬川の間比較的遺跡が集中しており、中でも綾瀬川の流域には、中期から後期の遺跡が比較的多く見られる。

第1表 周辺の遺跡一覧表(第2図)

ふじみ野市			川越市			川越市		
	遺跡名	時代		遺跡名	時代		遺跡名	時代
1	川崎遺跡	旧 縄 古 奈・平	40	南久我原遺跡		81	氷川神社古墳	古
2	ハケ遺跡	縄 奈・平	41	寺尾貝塚		82	仙波氏館跡	中
3	川崎横穴墓群	古	42	田成遺跡		83	堀之内遺跡	縄
4	北野遺跡	縄 奈・平	43	西向遺跡		84	弁天南遺跡	縄 古 奈・平 中
5	上福岡貝塚	縄 古 奈・平	44	前田遺跡		85	弁天上遺跡	縄 古 奈・平
6	権現山遺跡群(古墳群)	縄 古 奈・平	45	奥貫家屋敷		86	仙波古代集落遺跡	古 平
7	滝遺跡	縄 古 奈・平 近	46	並木遺跡		87	弁天西遺跡	縄 古 奈・平 中
8	長宮遺跡	縄 中・近	47	小中居遺跡		88	中院遺跡	中・近
9	西原遺跡	縄	48	南田島遺跡		89	小仙波4丁目遺跡	縄 古 奈・平 近
10	福遺跡	古	49	大仙波遺跡		90	三変稲荷神社古墳	古
11	富士見台横穴墓群	古	50	漆谷遺跡		91	小仙波貝塚跡	縄 古 奈・平
12	松山遺跡	奈・平 中・近	51	藤原町遺跡		92	小仙波2丁目C遺跡	古 奈・平
13	西遺跡	縄	52	八幡神社遺跡		93	小仙波2丁目B遺跡	古 平
14	鶴ヶ丘遺跡	旧 縄	53	高島遺跡		95	小仙波2丁目D遺跡	縄 古 奈・平
15	鶴ヶ丘外遺跡	旧 縄	54	宿A遺跡		96	喜多院境内遺跡	平 中・近
16	亀居遺跡	旧 縄	55	善仲寺館跡		97	多宝塔古墳	古
17	鶴ヶ舞遺跡	旧 縄 奈・平	56	赤城遺跡		98	慈眼堂古墳	古
18	江川東遺跡	奈・平 近	57	古谷神社古墳		99	小仙波2丁目B遺跡	奈・平 近
19	東久保遺跡	旧 縄 近	58	上宿遺跡		100	末広町1丁目遺跡	近
20	亀久保堀跡遺跡	中	59	黒須田遺跡		富士見市		
21	江川南遺跡	旧 縄 中・近	60	沼端C遺跡			遺跡名	時代
22	東久保西遺跡	旧 縄 近	61	砂久保陣場跡		101	南武蔵野遺跡	
23	東中学校西遺跡	縄 近	62	中台C遺跡	縄 奈・平	102	オトウカ山遺跡	
24	東久保南遺跡	旧 縄 近	63	中台元川越分遺跡	縄 古 平	103	稲荷久保北遺跡	
25	駒林遺跡	中・近	64	はた塚古墳	古	104	稲荷久保南遺跡	
26	福岡新田遺跡	縄 中・近	65	中台A遺跡	縄	105	市街道遺跡	
27	鷺森遺跡	縄	66	中台B遺跡	縄 古	106	稲荷前遺跡	
28	苗間東久保遺跡	旧 縄	67	八雲神社古墳	古	107	鍛冶海戸遺跡	
29	浄禅寺跡遺跡	旧 縄 中・近	68	八雲東遺跡	奈・平	108	宮廻遺跡	
30	大井宿木戸跡	近世～近代	69	中台山古墳	古	109	外記塚遺跡	
31	神明後遺跡	旧 縄 奈・平～近	70	新宿小南遺跡	縄 奈 中	110	渡戸遺跡	
32	中沢前遺跡	旧 縄 近	71	新宿4丁目遺跡	縄 奈・平	111	薬師前遺跡	
33	西ノ原遺跡	旧 縄 奈・平～近	72	新宿3丁目遺跡	縄 奈・平	112	東渡戸遺跡	
34	城山遺跡	中・近	73	熊野神社西遺跡	縄 古 奈・平	113	貝塚山遺跡	
35	天神廻遺跡	古	74	浅間神社南遺跡	旧 縄 古 奈・平～近	114	西渡戸遺跡	
36	川袋遺跡	奈・平	75	新宿2丁目遺跡	縄 奈・平 近	115	羽沢遺跡	
37	伊佐島遺跡	古 平	76	東裏遺跡	縄 古 中	116	大谷遺跡	
川越市			77	浅間神社古墳	古	117	山室遺跡	
	遺跡名	時代	78	仙波小南遺跡	古	118	山室谷遺跡	
38	西河原遺跡		79	愛宕神社古墳	古 近	119	上内手遺跡	
39	南田遺跡		80	仙波小東遺跡	古			

代表的な遺跡として、富士見市南通遺跡、北通遺跡、ふじみ野市伊佐島遺跡(37)などがあげられる。

(4) 古墳、奈良、平安時代

古墳時代になると、権現山(6)の前方後方墳の築造を契機として、五領期の集落が、滝遺跡などに見られる。

中期では川崎遺跡(1)や打越遺跡などで散見される程度である。

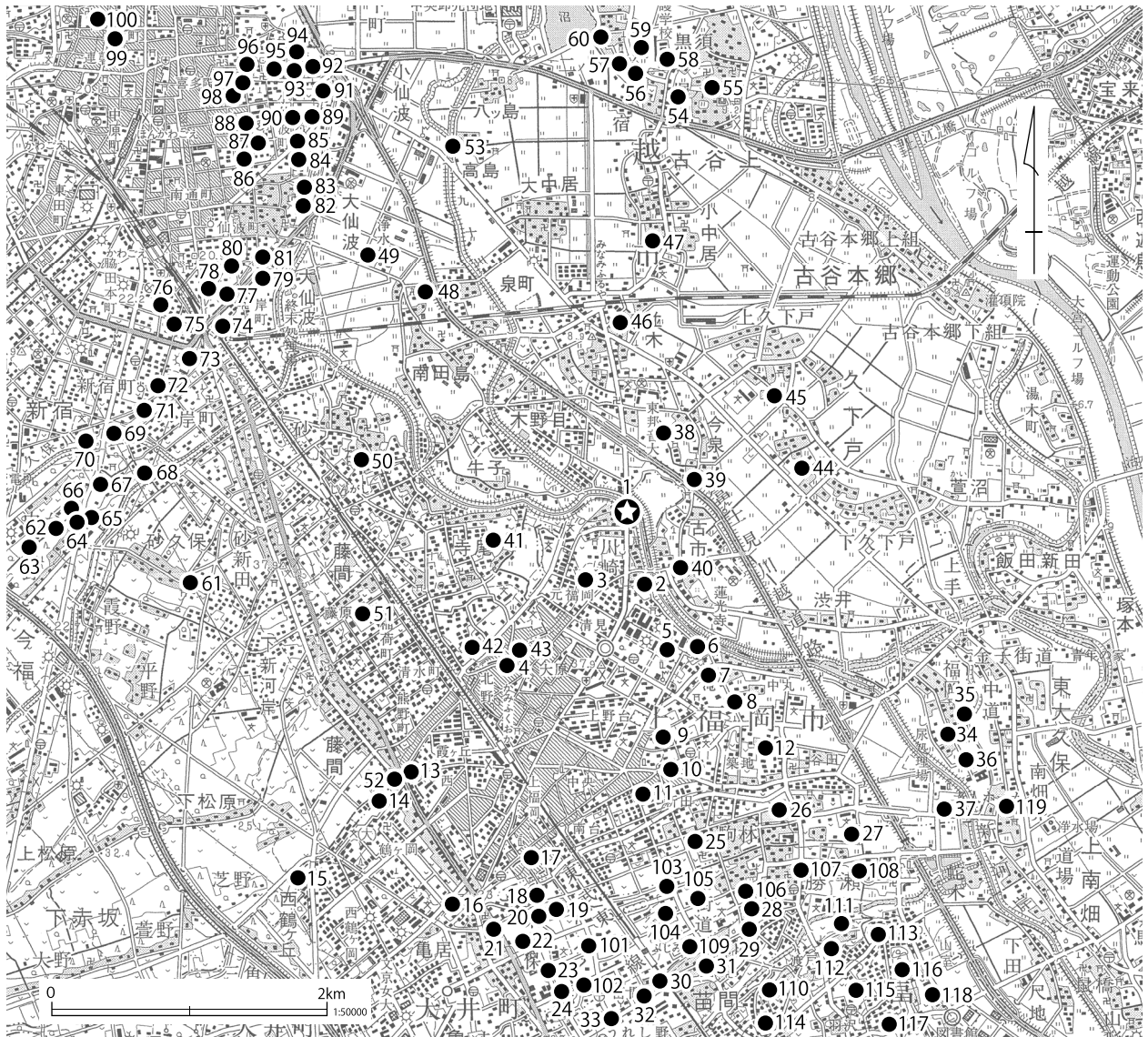
後期になると台地の縁辺部に疎らに集落が認められ始め、円墳や横穴墓などが構築されるが、台地の奥では更に少なくなる傾向がある。

奈良、平安時代では、武蔵国分寺の造営との関連が想定される東台遺跡の製鉄跡が著名である。

(5) 中世、近世、近代

中世から近世にかけては、台地の縁辺部の起伏を避けて、台地の中程に旧中山道跡が見られる。大井宿木戸跡(30)、江川南遺跡(21)、浄禅寺跡遺跡(29)、長宮遺跡(8)、本村遺跡などをあげることができる。

なお、近代の戦争遺産として、昭和初期の東京第一陸軍造兵廠川越製作所があり、土塁、防空壕などが確認されている。



第2図 周辺の遺跡

Ⅲ 遺跡の概要

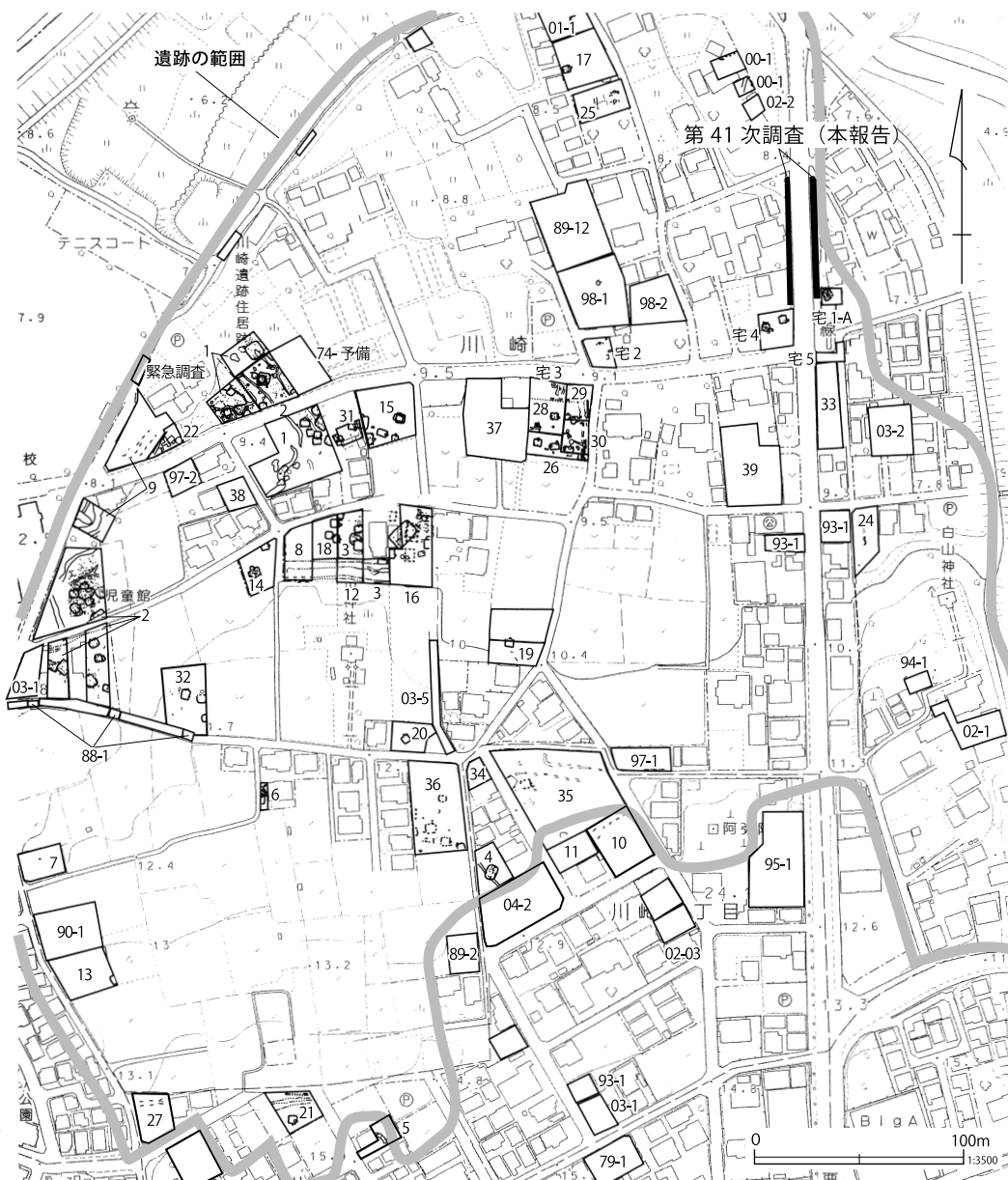
1. 川崎遺跡の概要

街路整備工事地内に所在する川崎遺跡の発掘調査は、平成26年度に当事業団が実施した。

本遺跡は、これまで40回以上にわたり、ふじみ野市(大部分は合併前の旧上福岡市)によって発掘調査が実施されており、縄文時代早期から後期の竪穴住居跡、縄文時代早期の炉穴、古墳時代前期、奈良時代から平安時代にかけての竪穴住居跡が多

数検出されている。また、中世から近世にかけての地下式坑、竪穴状遺構なども見つかった。

1917年に台地の先端部で貝塚が検出されたことを嚆矢とし、それ以降、上福岡市遺跡調査会による1974年の予備調査からはじまり、正式な調査では今回を含め44回、試掘等を含めれば、70回以上の調査が行われている。



第3図 川崎遺跡の範囲と既調査範囲

第2表 川崎遺跡の調査履歴(第3図)

地点	確認された遺構と遺物	所収報告書
予備発掘調査	炉穴3、土壇2、ピット群、縄文土器、石器	上遺調
1次	住居跡11(縄文前期3、古墳前期1、国分7)、溝跡3、堀2、土壇5、地下式坑6、集石1	川崎遺跡 第1次調査概報
緊急発掘調査	溝跡3、縄文土器、石器、平安土師器・須恵器・灰釉陶器・布目瓦・瓦塔	上遺調
宅地添1次(A地区)	縄文早期住居跡1、縄文土器、石器、礫	上遺調
2次	縄文住居跡9、古墳住居跡6、奈良平安住居跡10、中世遺構他	川崎遺跡 第2次調査概報
3次	縄文住居跡2(7,8)、奈良平安住居跡6(1,2,4~6,9)、焼土散布、柱穴、溝跡	川崎遺跡(第3次)・長宮遺跡
宅地添2次(B地区)	土壇3、ピット	埋(Ⅰ)
宅地添3次(C地区)	井戸跡2、地下式坑1、溝跡1	埋(Ⅰ)
4次	縄文前期住居跡1、溝跡1、黒浜式土器、貝類	埋(Ⅱ)(Ⅳ)
5次	溝状遺構	埋(Ⅱ)
79年度試掘(清見)	溝跡1	埋(Ⅱ)
6次	縄文前期住居跡2、平安住居跡2、縄文土器片	埋(Ⅱ)
7次	遺構なし、平安土器片	埋(Ⅳ)
8次	溝跡1	埋(Ⅵ)
宅地添4次	縄文住居跡1、平安住居跡1	埋(Ⅶ)
9次	溝跡2、縄文後・晩期、平安土器散布	埋(Ⅸ)
10次	溝跡1	埋(Ⅹ)
11次	なし	埋(11)
88試	住居跡1	埋(11)
89試(1)	なし	埋(12)
89試(2)	なし	埋(12)
12次	溝跡2	埋(13)
13次	奈良住居跡1	埋(13)
90試(1)	なし	埋(13)
14次	縄文前期住居跡1、貝塚、平安住居跡1	埋(13)
15次	平安住居跡7、土壇1	埋(14)
92試(1)	なし	埋(15)
93試(1)	なし	埋(16)
93試(2)	なし	埋(16)
94試(1)	なし	埋(17)
95試(1)	なし	埋(18)
16次	縄文前期(黒浜期)大型住居跡1、同期住居跡2・土壇2、平安住居跡4・掘立柱建物跡6、中世竪穴状遺構跡2	7年教要
17次	平安住居跡1	埋(19)
18次	平安住居跡1	埋(19)
97試(1)	溝跡1(時期不明)	埋(20)
97試(2)	なし	埋(20)
97試(3)	なし	9年教要

埋：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書

教要：上福岡市教育要覧

上遺調：上福岡市遺跡調査会報告書

市内：ふじみ野市市内遺跡群報告書

(ふじみ野市教育委員会の資料をもとに一部改編)

地点	確認された遺構と遺物	所収報告書
98試(1)	縄文前期土壇1他	埋(21)
市道402号線2次	縄文前期住居跡1	11年教要
00試(1)	貝塚の一部	埋(23)
範囲確認調査	溝跡1	埋(24)
19次	平安初頭住居跡1	埋(24)
01試(1)	なし	埋(24)
02試(1)	なし	埋(25)
02試(2)	溝跡1【盛土保存】	埋(25)
02試(3)	なし	14年教要
02試(4)	なし	14年教要
02試(5)	なし	14年教要
03試(1)	なし	埋(26)
03試(2)	なし	埋(26)
宅地添地区5次	古墳初頭竪穴住居跡1【調査実施】	15年教要
04試(1)	平安時代竪穴住居のカマドの一部	埋(27)
04試(2)	なし	埋(27)
20次	古墳住居跡1	市内1
21次	奈良住居跡1、溝跡	市内3
22次	炉穴4、地下式坑2、穴蔵1、土壇2	市内4
24次	なし	市内4
25次	奈良時代掘立柱建物跡1、溝跡、近代以降の地下室1	市内6
26次	奈良・平安時代竪穴住居跡4、土壇、ピット、近代以降の井戸1	市内6
27次	時期不明の溝跡1、土壇1	市内6
28次	奈良・平安時代竪穴住居跡2、土壇、ピット	市内6
29次	奈良・平安時代竪穴住居跡2、溝3	市内6
30次	奈良・平安時代竪穴住居跡4、井戸3、土壇、溝跡5	市内6
31次	縄文時代中期～後期住居跡2、奈良・平安時代竪穴住居跡2、ピット12	市内8
32次	奈良・平安時代竪穴住居跡3、土壇2、建物部分本調査	市内10
33次	なし	市内14
34次	なし	市内14
35次	縄文時代前期(黒浜期)住居跡1、奈良平安時代住居跡1他	市内14
36次	奈良平安時代住居跡6他	市内14
37次	須恵器片、遺構なし	市内15
38次	縄文焼土跡2・中世以降ピット5	市内15
39次	遺構なし、縄文土器、土師器、須恵器、焙烙	市内15
40次	なし	未報告
41次	縄文時代早期住居跡1、炉穴15、土壇7、縄文時代前期住居跡2、土壇1、ピット15、平安時代住居跡3、近世溝1畝跡1、ピット3	本報告書
42次	なし	未報告
43次	平安時代住居跡1、須恵器、土師器	未報告
44次	なし	未報告

2. 調査区の概要

今回の第41次調査は、ふじみ野市大字川崎218-1番地他を対象とした、県道の街路整備工事に伴うものである。

調査区は、県道を挟んで東西に分かれており、便宜的に西側を1区、東側を2区とした。調査区の幅は約2.5mであり、発見した遺構の多くは調査区域外に延びていた。また、調査区全体の表面が後世の削平を受けており、残された遺構は削平を受け、浅いものが多かった。

検出された遺構は、縄文時代のものが、竪穴住居跡、炉穴、土壇、ピットなどであり、奈良時代のもので、竪穴住居跡、近世の遺構は、土壇、溝跡、畝跡、ピットなどであった。

この中で縄文時代の遺構は、早期と前期の二時期に分かれていた。

縄文時代早期の遺構は、住居跡1軒、炉跡15基、土壇6基が、調査区東側の2区に集中しており、台地縁辺部の落ち際に近い部分から検出された。

これに対して縄文時代前期の遺構は、住居跡2軒、土壇2基であり、いずれも調査区西側の1区から検出されており、台地縁辺部ではあるが、落ち際から僅かに離れた部分に見られた。

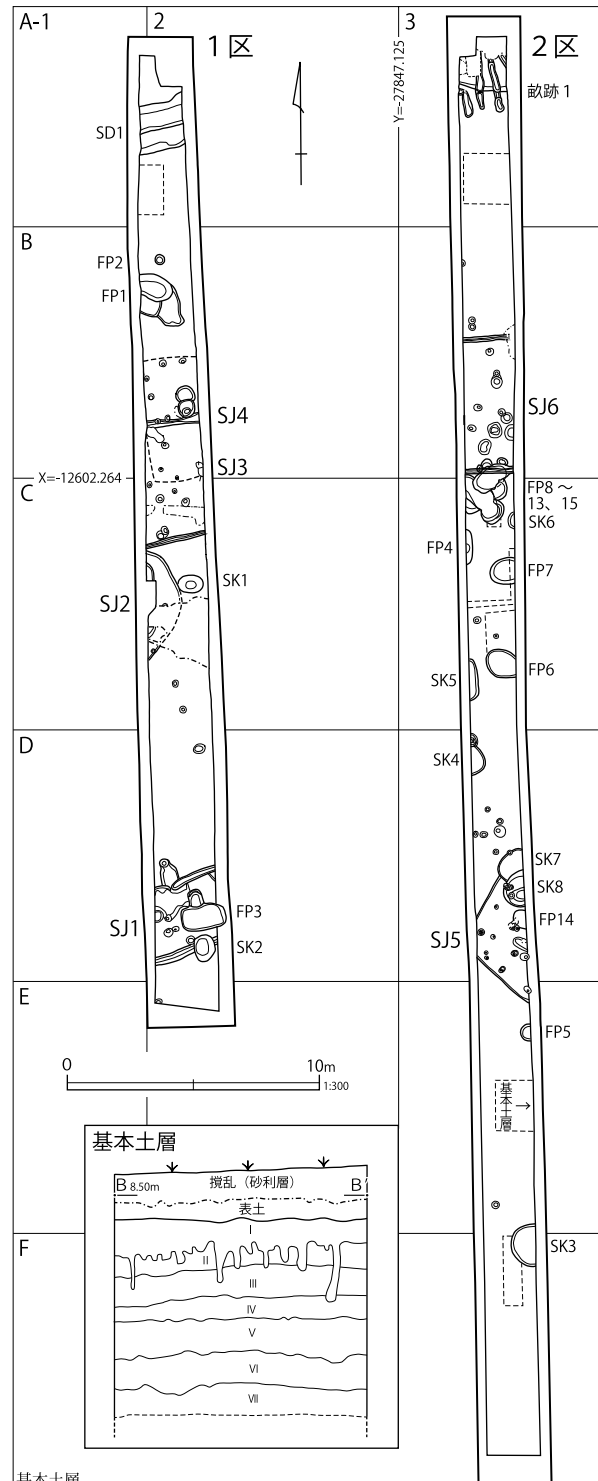
奈良時代の遺構は住居跡3軒であり、調査区内から満遍なく検出されている。

近世の遺構は畝跡1箇所、溝跡1条であり、いずれも調査区の北側から検出された。

3. 川崎遺跡の基本層序

川崎遺跡第41次調査範囲の基本層序は、大別して二層から構成されている。

現行の道路建設時に表土層を掘削し、ローム層をむき出しにして、その上に客土を盛り上げたため、現地表面からおよそ数十cm程度までは客土であり、その下は、ほとんどの場所で旧地表面の黒色土などが存在せず、ローム層となっている。遺構確認面は、この二層の境界部分である。



基本土層	説明
I 黄褐色土	ソフトローム II層がブロック状に混入 赤色スコリア、白色粒子、黒色スコリア微量 (III層相当)
II 黄褐色土	ハードローム 赤色スコリア少量 白色粒子多量 (IV層相当)
III 黄褐色土	第1黒色帯 赤色スコリア微量 黒色粒子多量 白色粒子少量 炭化物混入 (V層相当)
IV 黄褐色土	ハードローム III層より色調明るい 赤色スコリア粒子 II層よりやや大きい 白色粒子多量 黒色粒子少量 (VI層相当)
V 暗黄褐色土	第2黒色帯上層 II~IV層よりやわらかい IV層がブロック状に混入 オレンジ色粒子 黒色粒子 小円礫入る A層 (VII層相当)
VI 暗黄褐色土	第2黒色帯下層 II~IV層よりやわらかい オレンジ色粒子 小円礫入る (IX層相当)
VII 黄褐色土	明るく粘性あり (X層相当)

第4図 第41次調査全体図と基本層序

IV 遺構と遺物

1. 縄文時代早期の遺構と遺物

縄文時代早期の遺構は、竪穴住居跡1軒、炉穴15基、土壇7基が検出された。

(1) 住居跡

第5号住居跡 (第5、6図)

第5号住居跡は2区中央やや南よりのD、E-3グリッドから検出された。

他住居跡との重複関係は見られず、他遺構との関係は、第7、8号土壇、第14号炉穴に壊されていた。

覆土は、自然堆積と考えられる。

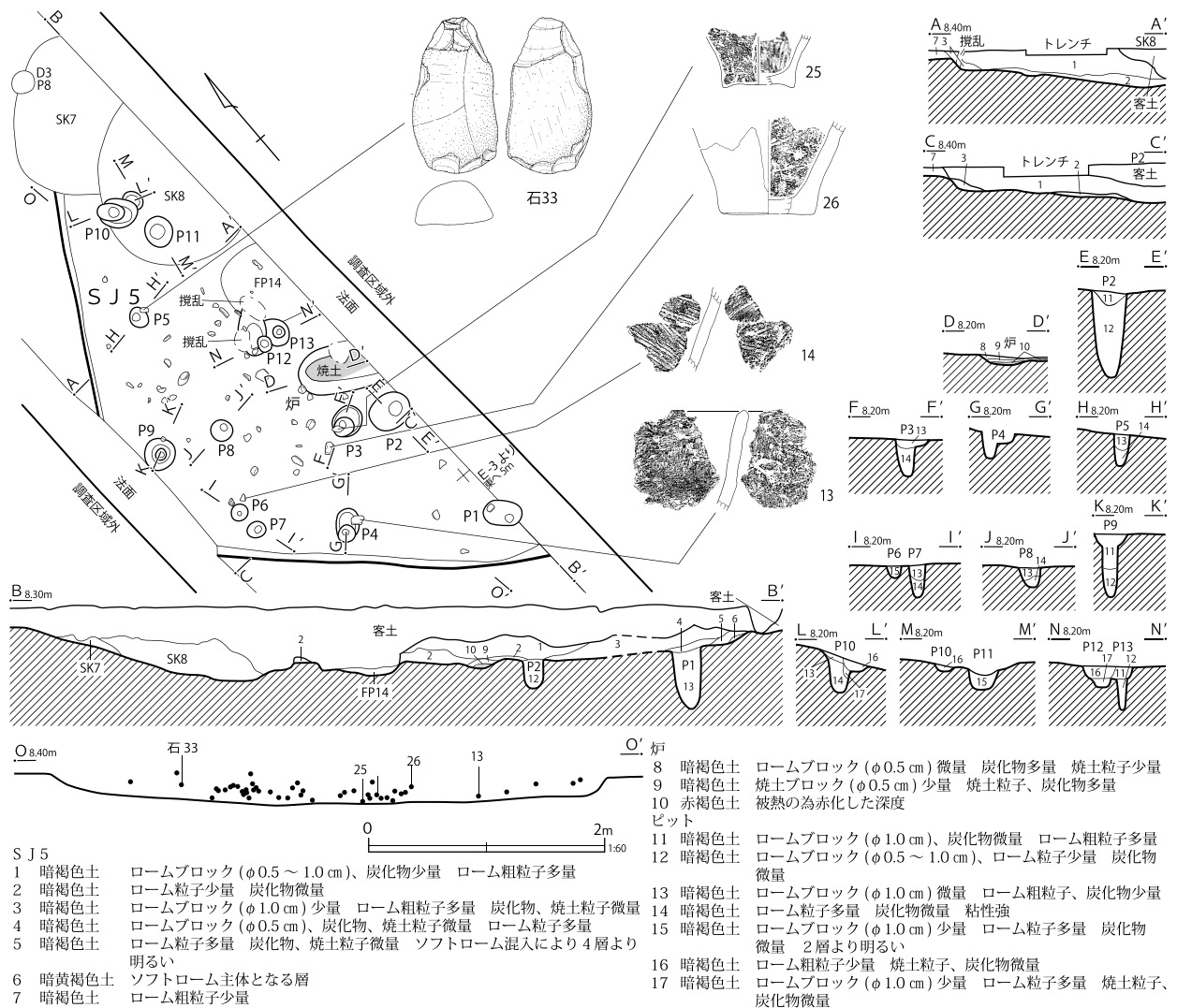
平面形態は方形と推定した。

規模は、残存長で長軸長3.7m、短軸長3.5m程度で、深さ約10cm、主軸方位はN-40° -Eである。

炉跡は、住居の中央南よりから検出され、0.6m×0.4m、深さ5cm程度である。形態は楕円形で全体に焼土が見られた。床面からは、13本のピットが検出された。

住居跡の時期は早期茅山上層式期と考えられる。第6図に出土遺物を示した。

第6図1~11は早期中葉の田戸下層式土器であ



第5図 第5号住居跡、遺物出土状況

第3表 第5号住居跡出土石器観察表(第6図)

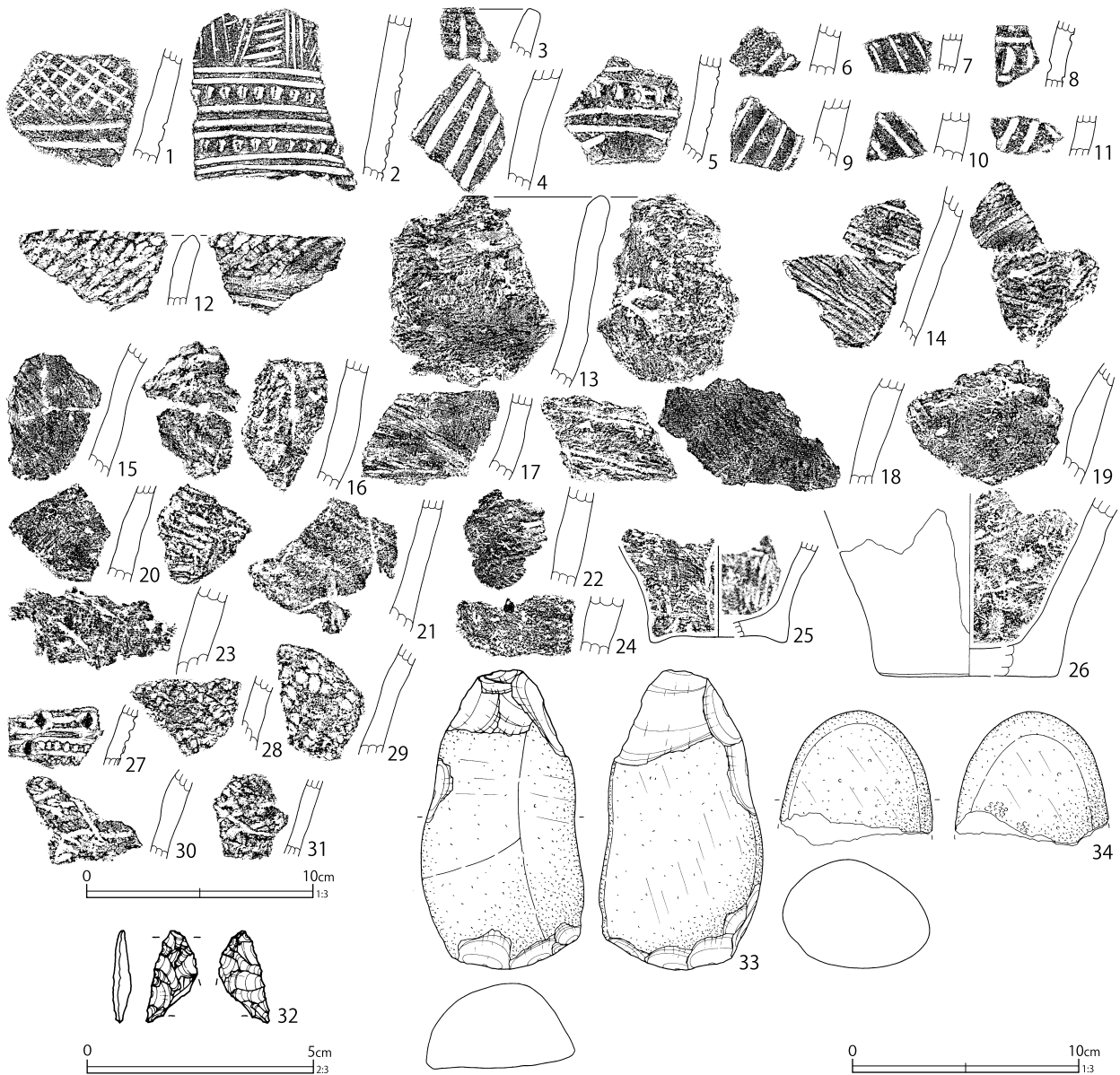
番号	器種	石材	長さ/cm	幅/cm	厚さ/cm	重さ/g	備考	図版
32	石鏃	チャート	2.0	[1.1]	0.4	0.6	SJ5 1区	
33	礫器	砂岩	13.2	7.2	3.8	420.3	SJ5 No18	6-3
34	磨石	安山岩	[5.9]	6.8	4.9	217.5	SJ5 1区	6-4

る。沈線によって文様が施文されるもので、1は格子目文が施文される。第6図12~26は早期後半茅山上層式土器である。内外面に条痕文を施文している。12は無節の縄文を施文する口縁部の破片で、口縁部内面にも施文している。第6図27、28は前期前半の関山I式土器で、27は瘤状貼付文が

施されている。第6図29~31は前期前半の黒浜式土器の胴部破片で、地文のみが施文されている。

第6図32~34は出土石器である。

32はチャート製の石鏃である。無茎で挟りが浅く、右脚部を欠損している。33は砂岩製の礫器である。34は安山岩製の磨石である。



第6図 第5号住居跡出土遺物

(2) 炉穴 (第7~11図)

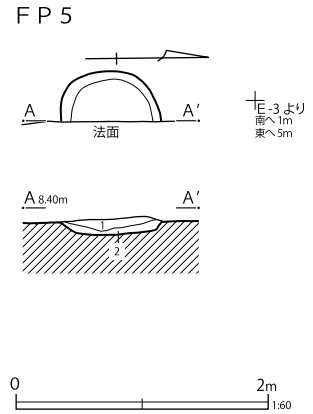
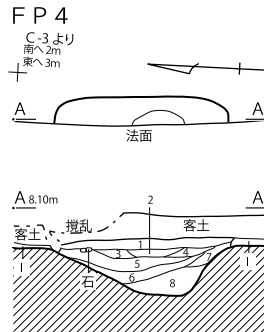
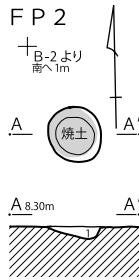
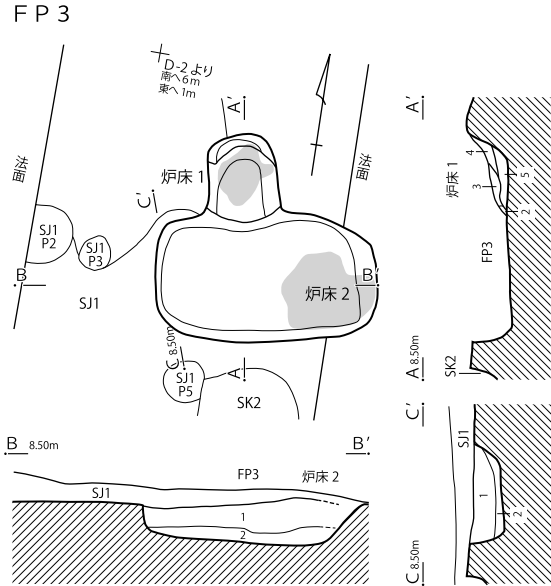
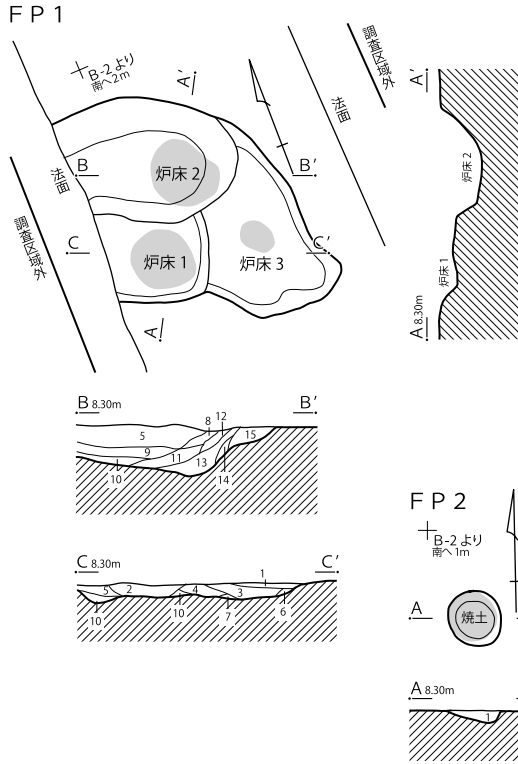
縄文時代早期の炉穴は、調査区内から15基検出された。特徴的なものについて、以下に記載する。

第1号炉穴は、間層を挟んで2枚の焼土層が見

られるので、断続的に使用されたと考えられる。

第3号炉穴は第1号住居跡の貼床の下から検出され、遺構種類の判断が困難であった。

第8~13、15号炉穴は、B・C-3グリッド周辺



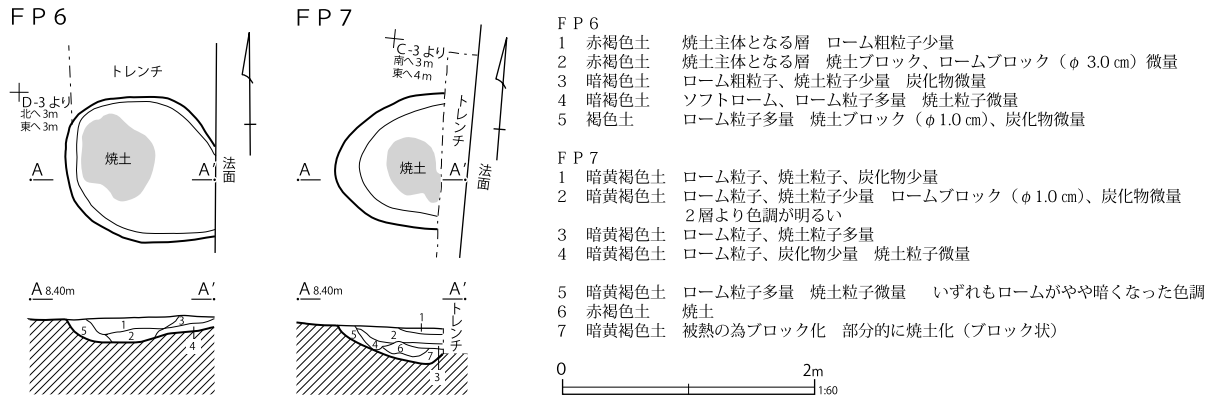
- FP 1**
- 1 黒褐色土 ローム粒子少量 炭化物微量
 - 2 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子、焼土ブロック (φ1.0~5.0 cm) 多量 炭化物少量
 - 3 暗褐色土 ローム粒子多量 焼土ブロック (φ1.0 cm)、焼土粒子、炭化物少量 ソフトローム混入
 - 4 暗褐色土 ローム粒子多量 焼土粒子、炭化物微量
 - 5 暗褐色土 ロームブロック (φ1.0 cm)、炭化物微量 ローム粗粒子多量
 - 6 暗褐色土 ローム粒子多量
 - 7 黄褐色土 ソフトローム主体となる層
 - 8 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物、焼土粒子少量 焼土ブロック (φ1.0~2.0 cm) 微量
 - 9 暗褐色土 (5・8層より色調暗い) ローム粒子、炭化物少量 焼土粒子微量 (9層に色調同じ) ローム粒子多量 ロームブロック (φ1.0~2.0 cm) 少量 炭化物微量 焼土粒子少量
 - 10 暗褐色土 ロームブロック (φ1.0~2.0 cm)、焼土ブロック、ローム粒子少量 炭化物、焼土粒子多量
 - 11 暗褐色土 炭化物主体の層 焼土ブロック少量
 - 12 黒色土 焼土、炭化物多量
 - 13 暗褐色土 ロームブロック多量→被熱の為ブロック状
 - 14 暗褐色土 ソフトローム多量混入 炭化物、焼土粒子少量
 - 15 褐色土

- FP 2**
- 1 暗褐色土 焼土ブロック (φ5.0 cm)、炭化物 (φ0.3~1.0 cm) 少量 焼土粒子 (φ0.3~0.5 cm) 多量 ※FP 2は焼土層の残りは弱く、床面も硬化していない

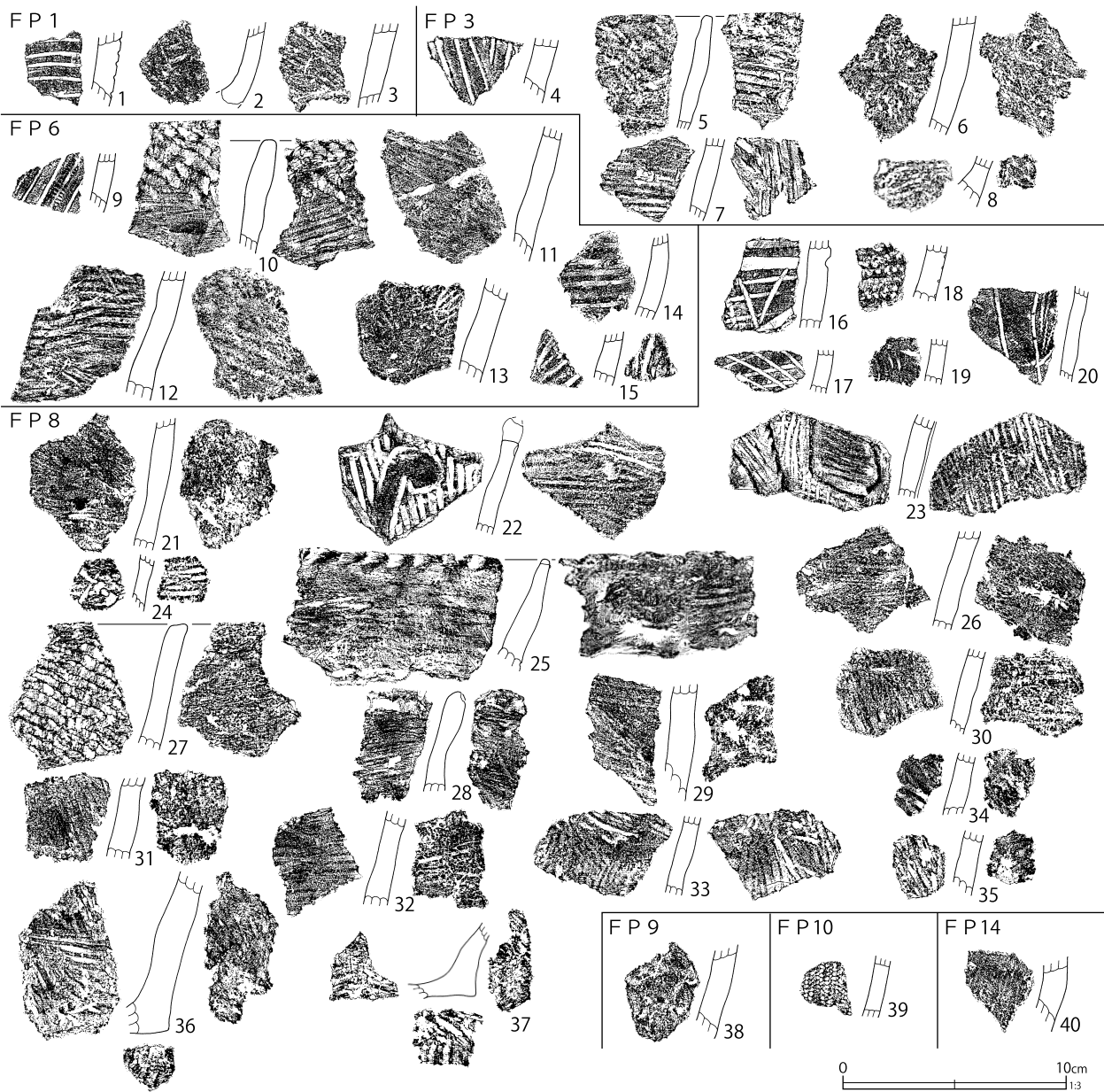
- FP 3**
- 1 黒褐色土 ロームブロック (φ1.0~2.0 cm)、ローム粒子、焼土ブロック (φ1.0 cm)、焼土粒子、炭化物少量
 - 2 暗褐色土 ロームブロック (φ1.0 cm)、焼土ブロック (φ1.0 cm)、炭化物微量 ローム粒子多量 焼土粒子少量
 - 3 黒褐色土 ロームブロック (φ1.0 cm) 微量 ローム粒子、焼土粒子少量
 - 4 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子多量 焼土ブロック (φ1.0 cm) 少量
 - 5 暗褐色土 ロームブロック (φ1.0 cm) 微量 ローム粒子、焼土粒子、焼土ブロック (φ1.0 cm) 多量

- FP 4**
- 1 ローム層 基本土層
 - 1 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5 cm) 微量 ローム粒子、炭化物、焼土粒子少量
 - 2 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物少量 焼土粒子微量
 - 3 明褐色土 ロームブロック (φ0.5 cm) 炭化物微量 ローム粒子多量 焼土粒子少量 ソフトローム多く混入
 - 4 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子多量 焼土ブロック (φ1.0~2.0 cm) 炭化物少量
 - 5 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5 cm)、焼土粒子少量 ローム粒子多量 焼土ブロック (φ1.0 cm)、炭化物微量
 - 6 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子多量 焼土ブロック (φ1.0 cm)、炭化物少量
 - 7 明褐色土 ローム粒子多量 炭化物少量 ソフトローム多量に混入
 - 8 赤褐色土 焼土層 炉床部分の焼土と考えられる
- FP 5**
- 1 暗褐色土 ローム粒子多量 ブロック状のソフトローム 炭化物少量 確認面には焼土が広がっており、炉穴と考えられるが、炉床は調査区内では検出されなかった
 - 2 褐色土 ソフトローム主体となる層 炭化物微量

第7図 第1~5号炉穴

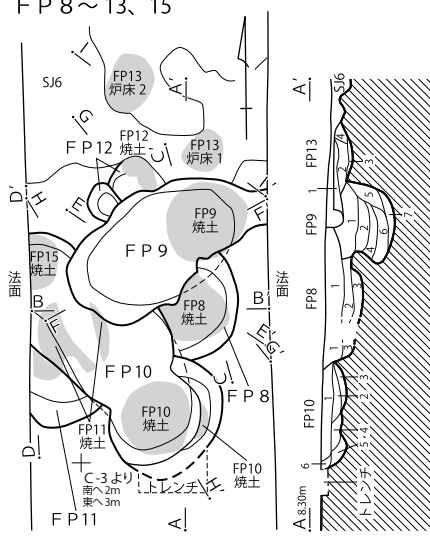


第8図 第6、7号炉穴

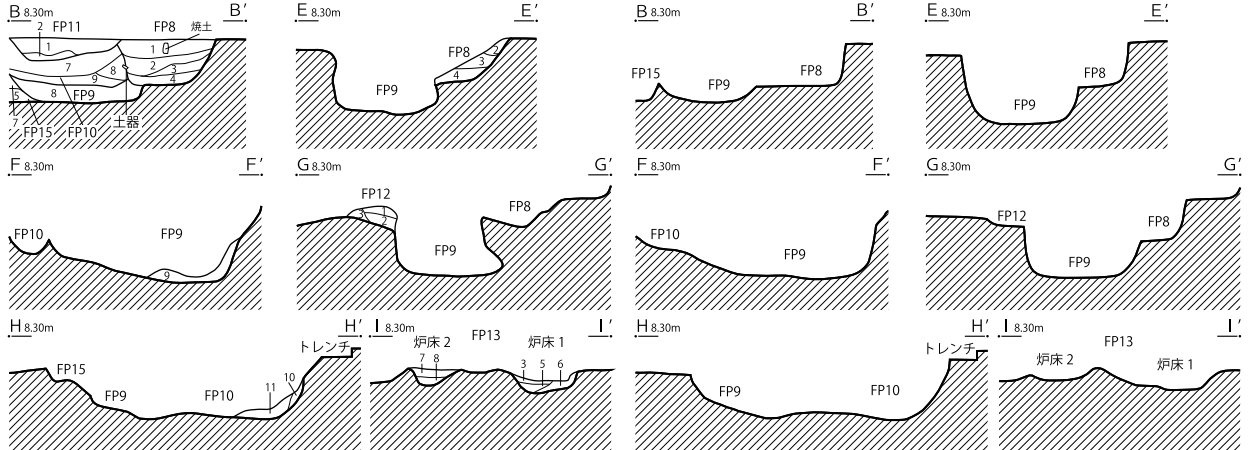
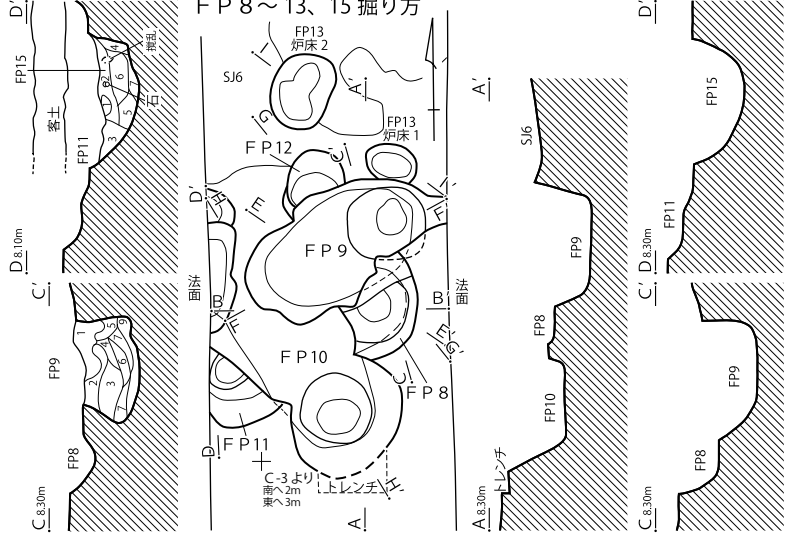


第9図 炉穴出土遺物

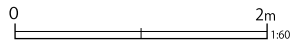
FP 8~13、15



FP 8~13、15 掘り方



- | | |
|---|---|
| <p>FP 8</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 暗褐色土 ローム粗粒子、炭化物少量 焼土粒子多量 2 黒褐色土 ローム粒子 ($\phi 0.1 \sim 0.3\text{cm}$) 多量 炭化物、焼土粒子 ($\phi 0.1 \sim 1.0\text{cm}$) 少量 3 暗褐色土 炭化物、焼土ブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0\text{cm}$) 少量 ローム粒子、焼土粒子 ($0.1 \sim 1.0\text{cm}$) 多量 4 赤褐色土 焼土層$\Rightarrow$炉床部 焼土主体 硬化した焼土ブロック ($\phi 1.0 \sim 2.0\text{cm}$) 少量 炭化物微量 炭化層がまばら <p>FP 9</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 褐色土 ソフトローム混入 ロームブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0\text{cm}$)、炭化物少量 ローム粒子多量 焼土粒子微量 2 暗褐色土 ブロック状のソフトローム ロームブロック ($\phi 1.0 \sim 3.0\text{cm}$)、炭化物少量 ローム粒子多量 焼土粒子微量 3 暗褐色土 ローム粒子少量 炭化物、焼土粒子微量 4 暗褐色土 ロームブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0\text{cm}$)、炭化物、焼土粒子微量 ローム粒子多量 5 暗褐色土 ソフトローム、ローム粒子多量 炭化物少量 焼土粒子微量 6 暗褐色土 ロームブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0\text{cm}$)、炭化物、焼土粒子微量 ローム粒子少量 7 暗褐色土 ロームブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0\text{cm}$)、焼土ブロック ($\phi 1.0\text{cm}$) 少量 ローム粒子、焼土粒子多量 炭化物微量 8 暗褐色土 ローム粗粒子少量 炭化物、焼土粒子微量 9 赤褐色土 焼土主体 ソフトローム混入 ローム粗粒子、硬化した焼土ブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0\text{cm}$)、焼土粒子多量 <p>FP 10</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 暗褐色土 ローム粗粒子少量 焼土粒子微量 炭化物少量 2 暗褐色土 ローム粗粒子多量 焼土ブロック ($\phi 1.0\text{cm}$)、焼土粒子微量 炭化物少量 3 暗褐色土 ソフトローム混入 ローム粒子多量 炭化物微量 4 暗褐色土 ローム粗粒子、焼土粒子多量 炭化物微量 5 暗褐色土 ソフトローム混入 ローム粒子少量 炭化物、焼土粒子微量 6 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物、焼土粒子微量 7 暗褐色土 ロームブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0\text{cm}$) 少量 ローム粗粒子多量 焼土ブロック微量 炭化物、焼土粒子少量 8 暗褐色土 ローム粗粒子少量 焼土粒子微量 炭化物微量 9 暗褐色土 ロームブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0\text{cm}$) 少量 焼土ブロック微量 ローム粗粒子多量 炭化物、焼土粒子少量 10 炭化層 ロームブロック ($\phi 0.2\text{cm}$) ローム粒子 ($\phi 0.3 \sim 0.5\text{cm}$)、硬化した焼土粒子 ($\phi 0.3 \sim 1.0\text{cm}$) 少量 11 赤褐色土 焼土主体 炭化物 ($\phi 0.3 \sim 0.5\text{cm}$) 微量 | <p>FP 11</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 暗褐色土 ロームブロック ($\phi 1.0\text{cm}$) 微量 ローム粗粒子多量 炭化物、焼土ブロック ($\phi 1.0\text{cm}$) 少量 焼土粒子多量 焼土層 2 赤褐色土 <p>FP 12</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 赤褐色土 焼土主体 ローム粒子 ($\phi 0.5 \sim 1.0\text{cm}$) 少量 2 明暗褐色土 ロームブロック ($\phi 2.0\text{cm}$)、ローム粒子 ($\phi 0.3 \sim 1.0\text{cm}$) 多量 焼土粒子 ($\phi 0.1 \sim 0.3\text{cm}$) 少量 3 暗褐色土 ロームブロック、ローム粒子 ($0.3\text{cm} \sim 2.0\text{cm}$)、焼土粒子 ($0.1\text{cm} \sim 1.0\text{cm}$) 少量 <p>FP 13 炉床 1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 暗褐色土 ローム粗粒子多量 炭化物、焼土粒子少量 2 暗褐色土 ロームブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0\text{cm}$) 微量 ローム粗粒子、焼土粒子多量 炭化物少量 3 黒褐色土 ロームブロック ($\phi 0.5 \sim 2.0\text{cm}$)、ローム粒子 ($\phi 0.3 \sim 0.5\text{cm}$)、焼土粒子 ($\phi 0.1 \sim 0.2\text{cm}$) 多量 焼土ブロック ($\phi 1.0\text{cm}$) 少量 炭化物微量 4 暗褐色土 ロームブロック ($\phi 0.5 \sim 1.0\text{cm}$) 少量 ローム粒子多量 炭化物、焼土ブロック ($\phi 1.0\text{cm}$) 微量 焼土粒子多量 5 暗褐色土 ローム粒子 ($\phi 0.3 \sim 0.5\text{cm}$)、焼土粒子 ($\phi 0.1 \sim 0.2\text{cm}$) 少量 6 にぶい褐色土 ローム主体 <p>FP 13 炉床 2</p> <ol style="list-style-type: none"> 7 暗褐色土 焼土粒子 ($\phi 0.1 \sim 1.0\text{cm}$) 多量 炭化物微量 8 暗褐色土 ローム粒子 ($\phi 0.3 \sim 0.5\text{cm}$) 少量 <p>FP 15</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 暗褐色土 ロームブロック (被熱)、ローム粒子、焼土粒子多量 2 暗褐色土 焼土が多量に混入 ローム粒子多量 炭化物少量 3 暗褐色土 ロームブロック主体 ローム粒子多量 天井崩落土 4 赤褐色土 壁面が赤化した層 5 暗褐色土 ローム粒子、焼土多量 6 赤褐色土 焼土層 7 赤褐色土 焼土層 |
|---|---|



第10図 第8~13、15号炉穴

第4表 炉穴一覧表(第7、8、10、11図)

名称	グリッド	平面形	長軸方位	長軸×短軸/m	深さ/cm	重複遺構等	
第1号炉穴	B-1,2	不整形	N-49° -W	2.57×1.64	38	SJ1より古	
第2号炉穴	B-2	円形	N-50° -W	0.45×0.42	8		
第3号炉穴	D-2	不整形	N-10° -W	1.75×1.65	38		
第4号炉穴	C-3	隅丸長方形	N-2° -W	1.40×0.22	45		
第5号炉穴	E-3	円形	N-0°	0.78×0.30	13		
第6号炉穴	C-3	楕円形	N-39° -E	1.47×1.15	19		
第7号炉穴	C-3	楕円形	N-3° -W	1.07×0.81	28		
第8号炉穴	C-3	円形?	N-3° -E	(1.00)×(1.00)	36		FP9、10より新
第9号炉穴	B、C-3	不整形	N-67° -E	(1.80)×0.50	50		FP8、10、SJ6より古、FP10、12、15とは不明
第10号炉穴	C-3	不整形	N-30° -W	(2.60)×0.75	35		FP9、15より新、FP8、SJ6より古
第11号炉穴	C-3	楕円形?	N-31° -W	(1.00)×(0.80)	10		FP8より新、FP10、15とは不明
第12号炉穴	B、C-3	不整形	N-73° -E	(0.65)×(0.60)	15		SJ6より古、FP9、10とは不明
第13号炉穴	B-3	円形?	N-0°	0.6×0.5 0.5×0.4	15		FP8より新、SJ6より古
第14号炉穴	D-3	長形?	N-3° -W	0.72×0.51	15		SJ5より新
第15号炉穴	B、C-3	楕円形?	N-0°	(0.80)×(0.65)	35		FP10より古、FP9、11とは不明

から集中的に検出されたため、遺物の帰属が必ずしも明確ではない。

第1号炉穴出土遺物 (第9図1~3)

1~3は田戸下層式である。

第3号炉穴出土遺物 (第9図4~8)

4は田戸下層式、5~8は茅山上層式である。

第6号炉穴出土遺物 (第9図9~15)

9は田戸上層式、10~15は茅山上層式である。

第8号炉穴出土遺物 (第9図16~37)

16、17は田戸下層式、18~21は田戸上層式、22、23は野島式、24は鶴ガ島台式、25~27は茅山上層式、28~37は条痕文の破片である。

第9号炉穴出土遺物 (第9図38)

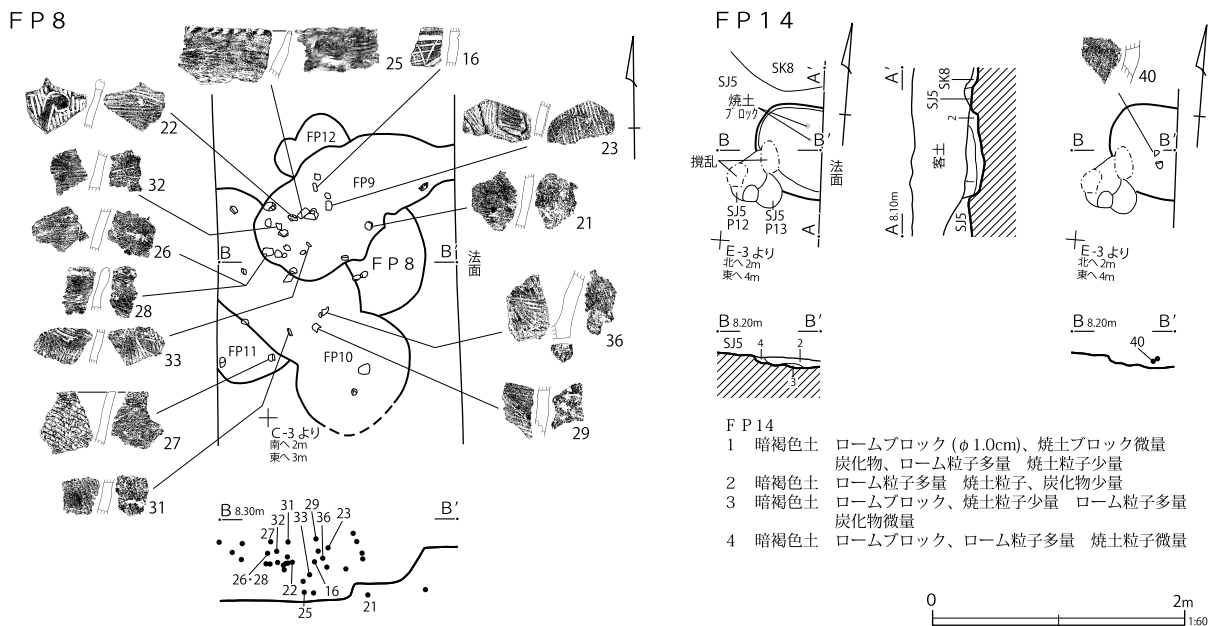
38は条痕文の胴部破片である。

第10号炉穴出土遺物 (第9図39)

39は撚糸文の胴部破片である。

第14号炉穴出土遺物 (第9図40)

40は条痕文の胴部破片である。



第11図 第8号炉穴遺物出土状況、第14号炉穴

(3) 土壌

川崎遺跡からは土壌が8基検出されており、このうち縄文時代早期の土壌は第2号土壌を除く7基である。

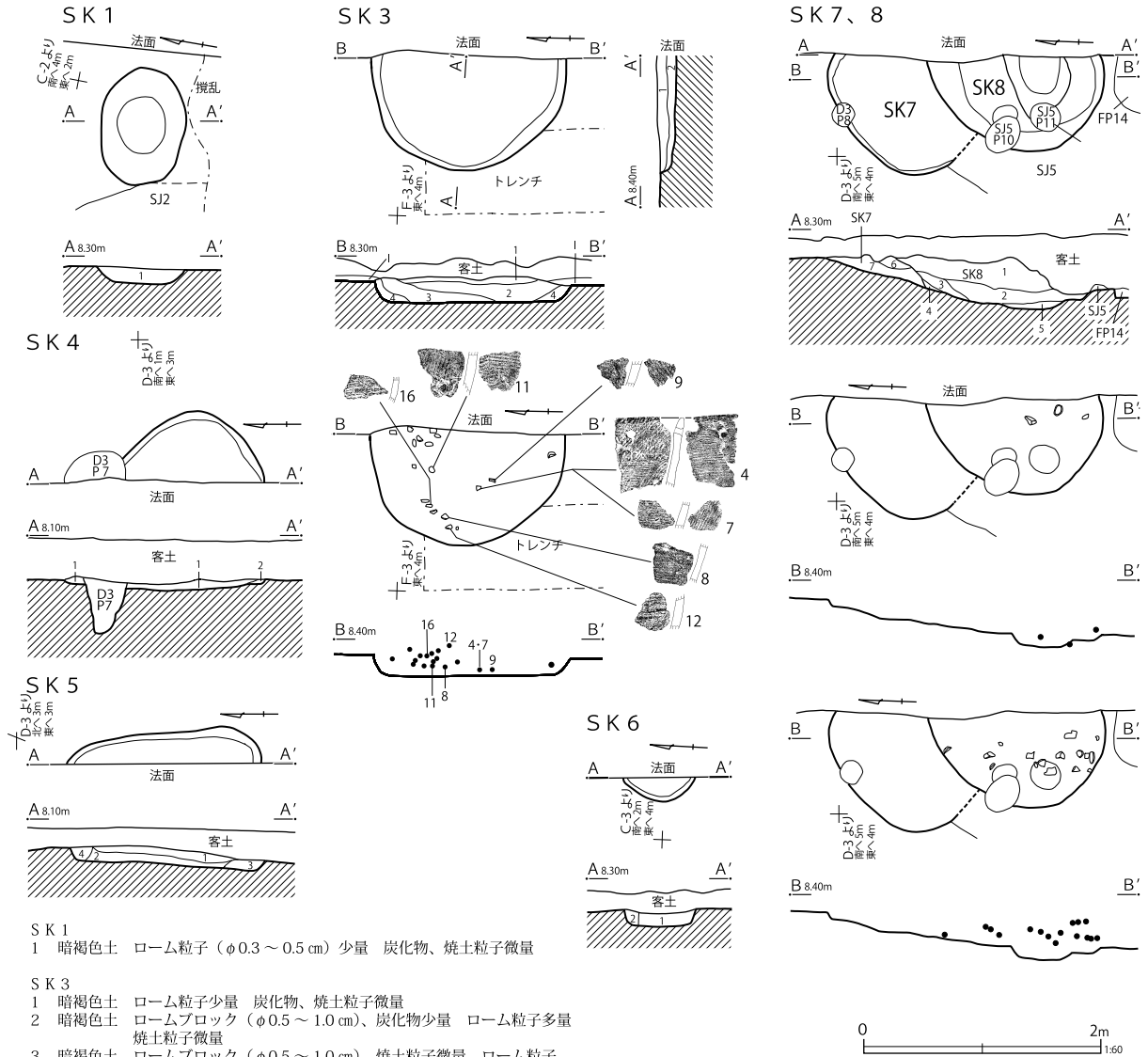
第12図に個別図、第13図に出土遺物、第5表に一覧をそれぞれ示した。

第1号土壌出土遺物 (第13図1~3)

1~3は早期後半の条痕文土器で、内外面に条痕文が施文されている。

第3号土壌出土遺物 (第13図4~16)

4~11は早期後半の茅山上層式土器で、内外面



SK 1
1 暗褐色土 ローム粒子 (φ0.3~0.5 cm) 少量 炭化物、焼土粒子微量

SK 3
1 暗褐色土 ローム粒子少量 炭化物、焼土粒子微量
2 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5~1.0 cm)、炭化物少量 ローム粒子多量 焼土粒子微量
3 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5~1.0 cm)、焼土粒子微量 ローム粒子、炭化物少量
4 暗褐色土 ローム粒子多量 ロームブロック (φ0.5~2.0 cm) 少量 炭化物、焼土粒子微量 ソフトローム混入

SK 4
1 暗褐色土 ロームブロック (φ1.0 cm)、炭化物微量 ローム粒子少量
2 褐色土 ロームブロック (φ1.0 cm)、ローム粒子多量

SK 5
1 暗褐色土 ロームブロック (φ1.0~2.0 cm)、炭化物微量 ローム粗粒子、焼土粒子少量
2 暗褐色土 ロームブロック (φ1.0 cm)、炭化物少量 ローム粒子多量 ソフトローム混入
3 褐色土 ロームブロック (φ5.0 cm) 極多量 ローム粒子多量
4 暗褐色土 ロームブロック (φ2.0 cm)、炭化物微量 ローム粒子少量

SK 6
1 暗褐色土
2 黒褐色土

SK 6
1 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物少量 焼土粒子微量
2 黒褐色土 ローム粗粒子少量 炭化物少量 ビットと考えられる

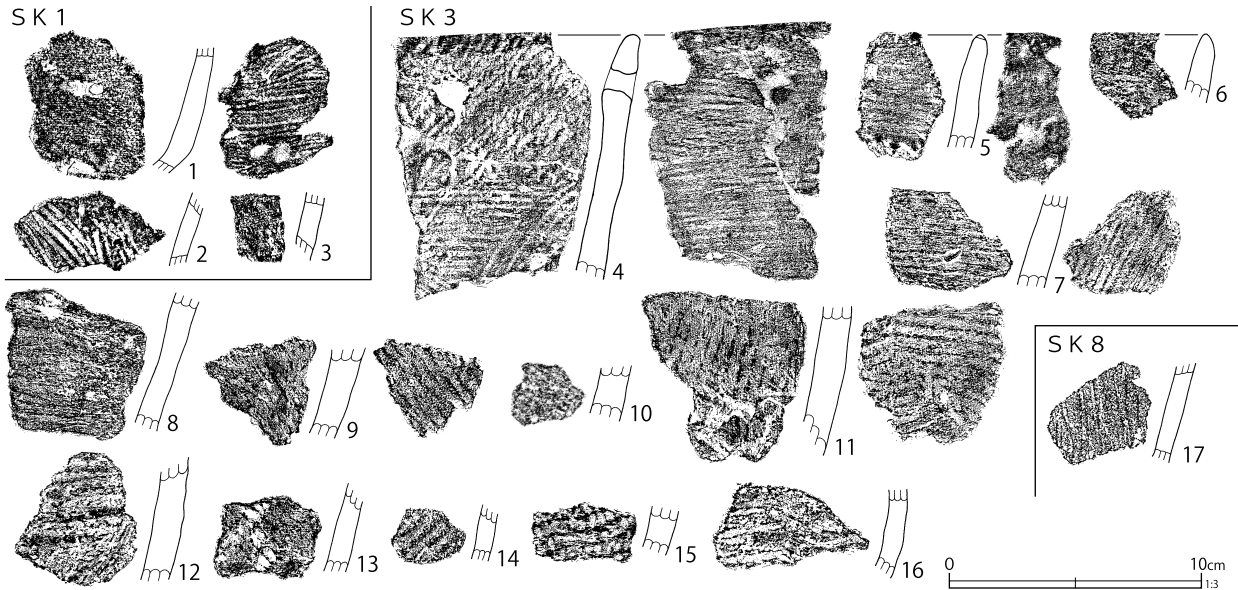
SK 7
6 暗黄褐色土 ソフトローム主体 炭化物少量
7 暗黄褐色土 ソフトローム主体 炭化物少量 焼土粒子微量

SK 8
1 暗褐色土 ローム粗粒子少量 炭化物、焼土粒子微量
2 暗褐色土 ローム粗粒子多量 炭化物、焼土粒子少量
3 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物、焼土粒子微量 ソフトローム混入
4 暗黄褐色土 ソフトローム主体 炭化物、焼土粒子微量
5 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物、焼土粒子微量 2層より色明るい

第12図 第1、3~8号土壌

第5表 土壌一覧表(第12図)

名称	グリッド	平面形	長軸方位	長軸×短軸/m	深さ/cm	重複遺構等
第1号土壌	C-2	隅丸長方形	N-88° -E	1.00×0.70	14	
第3号土壌	E・F-3	円形?	N-0°	1.64×(0.94)	18	
第4号土壌	D-3	円形?	N-0°	1.18×(0.53)	8	
第5号土壌	C-3	隅丸長方形?	N-1° -E	1.64×(0.27)	10	
第6号土壌	C-3	楕円形?	N-2° -W	0.32×(0.10)	14	
第7号土壌	D-3	楕円形?	N-50° -W	1.35×(0.88)	24	
第8号土壌	D-3	楕円形?	N-2° -W	1.34×(0.87)	44	



第13図 第1、3、8号土壌出土遺物

に条痕文が施文されている。4～6は口縁部の破片で、4には補修孔が穿たれている。

12～16は前期初頭の花積下層式土器の胴部破片である。

第8号土壌出土遺物 (第13図17)

17は早期中葉の田戸下層式土器の胴部破片である。

(4) グリッド出土遺物

縄文時代早期の土器片の中で、帰属する遺構が不明瞭なものや、表土から出土したものを第14図1～9に示した。

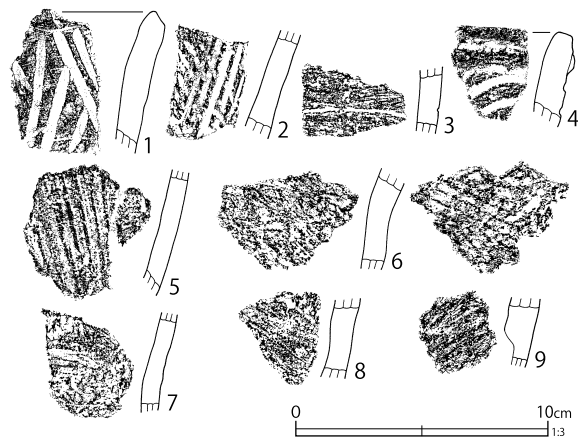
1～3は早期中葉の土器である。

1、2は田戸下層式の深鉢形土器で、斜沈線が施文されている。3は田戸上層式の深鉢形土器の胴部破片で、横位の沈線が施文されている。

4～9は早期後半の条痕文系土器である。

4は下吉井式土器の口縁部の破片で、口縁部に隆帯が貼付され、下位に沈線が曲線状に施文されている。

5～9は条痕文のみが残る胴部破片である。



第14図 グリッド出土遺物

2. 縄文時代前期の遺構と遺物

縄文時代前期の遺構は、住居跡2軒、土壇1基、ピット15基が検出された。

(1) 住居跡

第2号住居跡 (第15図)

第2号住居跡は1区中央のC-2グリッドから検出された。

他遺構との重複は見られなかったが、北側に接するように奈良時代の第3号住居跡が検出されている。また、南側は著しく攪乱を受けている。

覆土は、自然堆積と考えられる。

平面形態は隅丸方形と推定した。

規模は、残存軸長で4.3mと1.1mで、深さ約15cm、軸方位はN-0°である。

炉跡は、住居の北側から検出され、0.7m×0.3

m、深さ10cm程度である。形態は楕円形で全体に焼土が見られた。

床面からは、3本のピットが検出された。

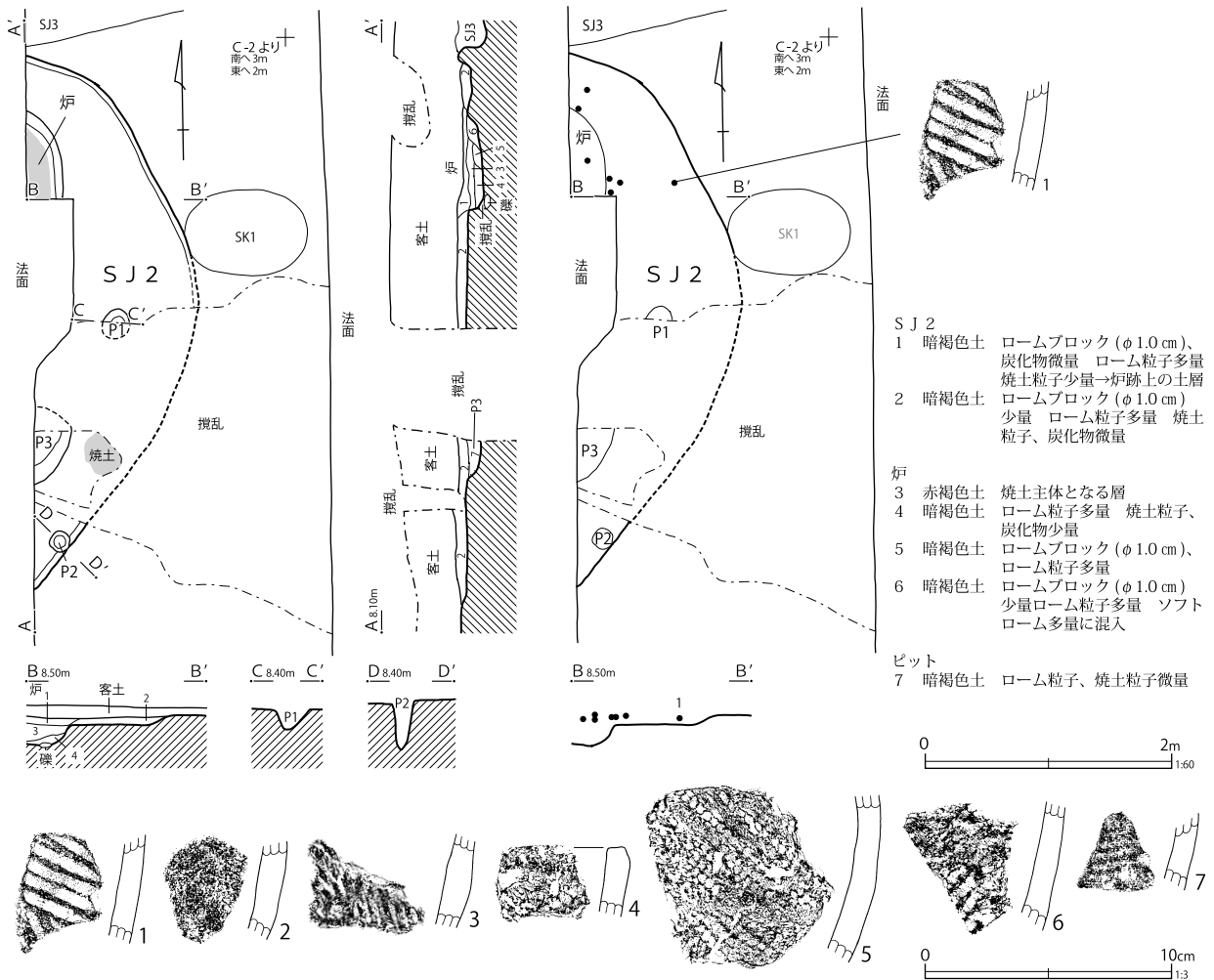
時期は縄文時代前期黒浜式期と考えられる。

第15図に出土土器を示した。

1～3は早期後半の条痕文系土器である。いずれも胴部の破片で、3は内面にも条痕が認められる。4～7は前期前半の黒浜式土器である。いずれも地文のみが施されている。4は口縁部の破片で、無節の縄文が施されている。5～7は胴部の破片で、5は単節R Lの縄文が施されている。6、7の器面は摩耗が激しく、地文は不明である。

第16図は、第2号住居跡出土の打製石斧である。

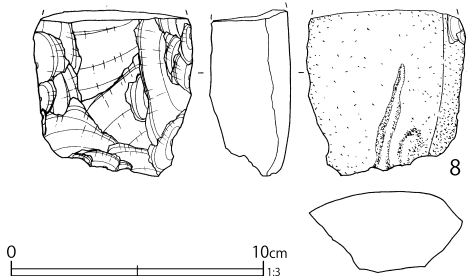
フォルンフェルス製で、上半部を欠損する。



第15図 第2号住居跡、出土遺物

第6表 第2号住居跡出土石器観察表(第16図)

番号	器種	石材	長さ/cm	幅/cm	厚さ/cm	重さ/g	備考	図版
8	打製石斧	フォルンフェルス	[6.5]	6.3	3.2	169.0	SJ2 No.3	6-5



第16図 第2号住居跡出土遺物

第4号住居跡 (第17、18図)

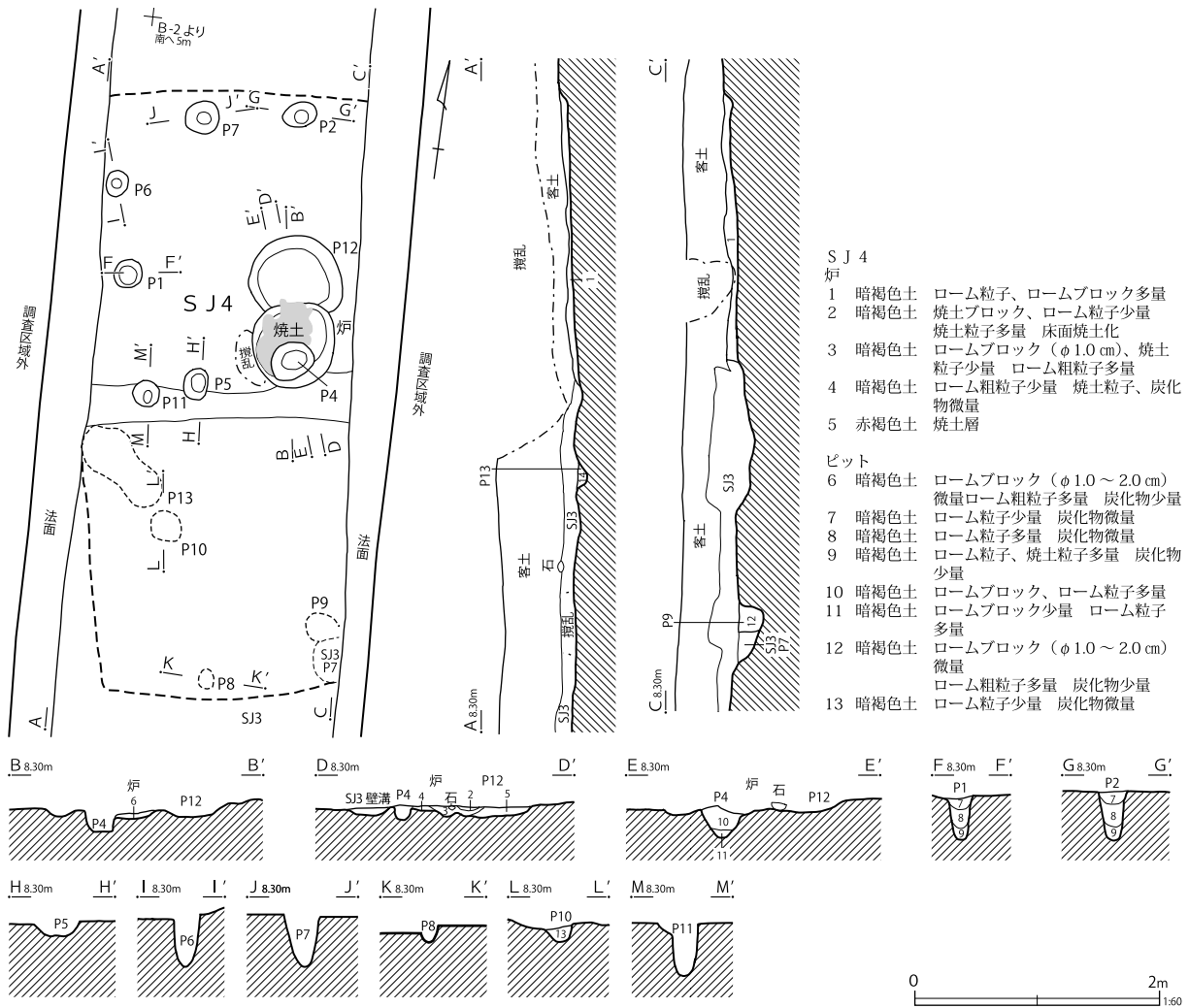
第4号住居跡は1区中央のB、C-2グリッドから検出された。

他住居跡との重複は、第3号住居跡に壊されていた。

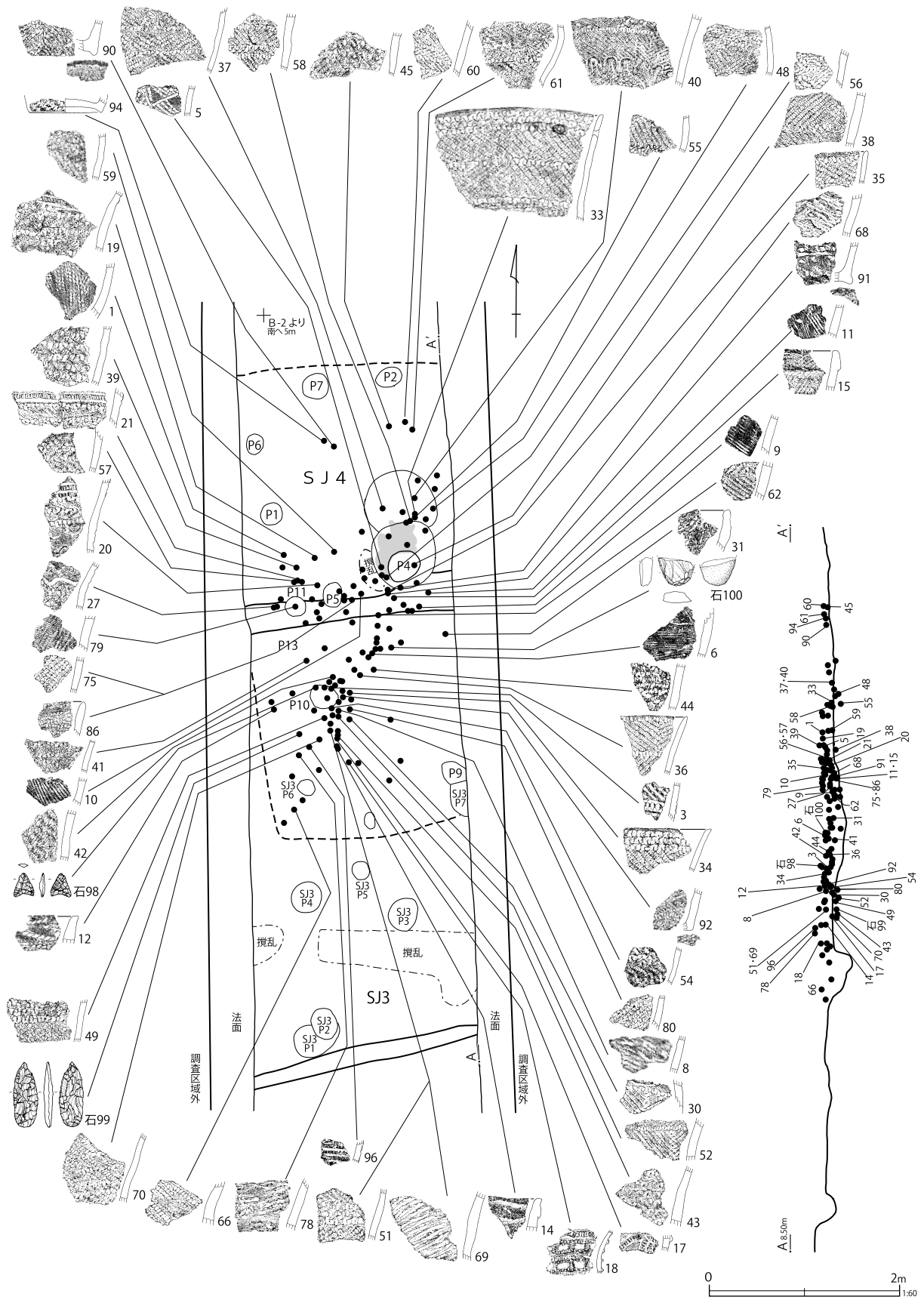
覆土は、自然堆積と考えられる。

平面形態はやや小型の隅丸方形と推定した。

規模は、残存軸長で4.9mと2.0mで、深さ約20cm、軸方位はN-7°-Eである。



第17図 第4号住居跡



第18図 第4号住居跡遺物出土状況



第19图 第4号住居跡出土遺物(1)

炉跡は、住居の中央から検出され、0.7m×0.7m、深さ15cm程度である。形態は楕円形で全体に焼土が見られた。

床面からは、10本のピットが検出された。

出土遺物は、関山I式土器が大半を占めており、住居跡の時期は前期前半の関山I式期と考えられる。

第19～21図に出土遺物を示した。

1は早期前半の稻荷台式の深鉢形土器の破片である。底部付近で、撚糸文Rが施文されている。

2、3は早期中葉の田戸下層式の深鉢形土器の胴部破片である。斜沈線文や平行沈線文が施文されている。

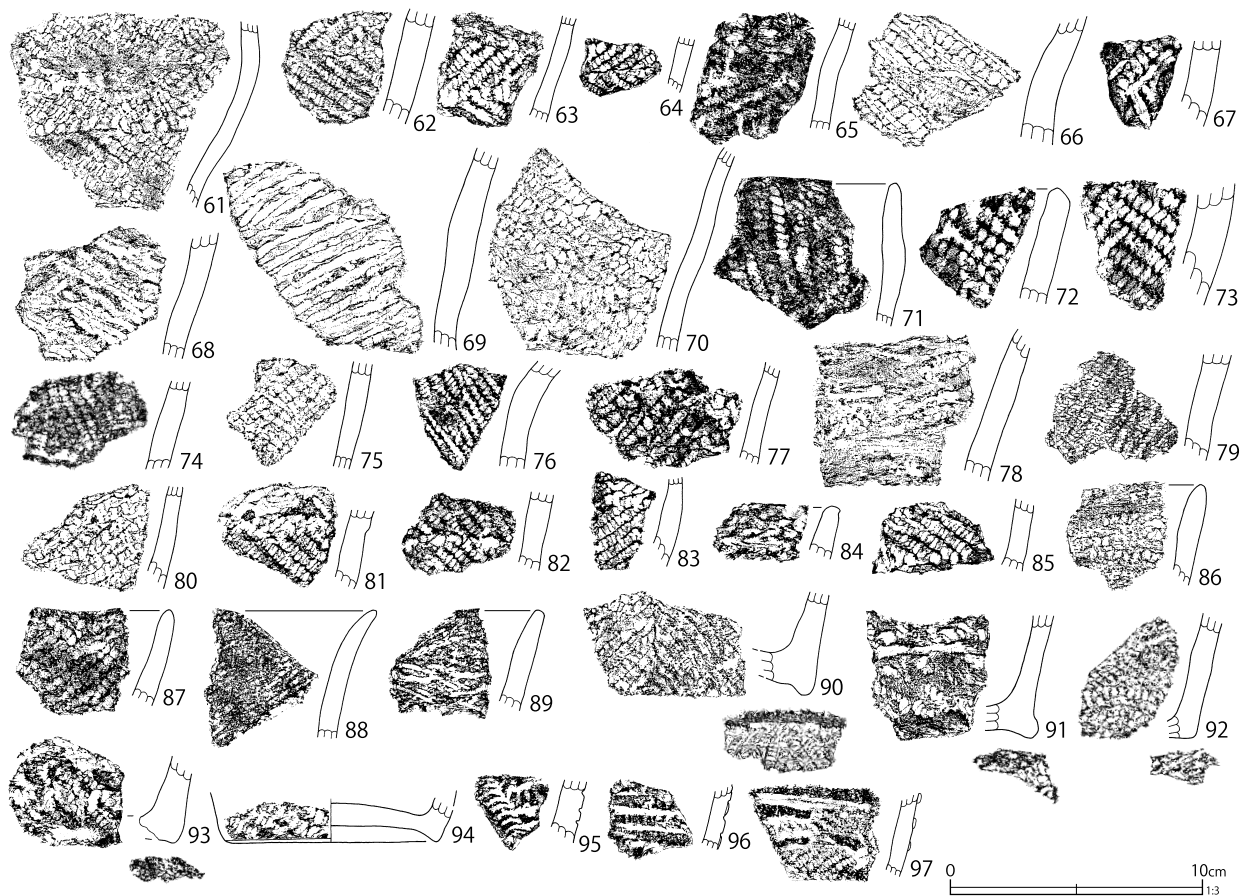
4～11は早期後半の条痕文系土器である。4は野島式土器で、細隆起線で襷状文が施文されている。5は鶉ガ島台式土器で、結節沈線文施文後に、斜沈線が施文されている。6～11は条痕文のみが

残存している。

12～15は前期初頭の花積下層式の深鉢形土器の破片である。12、13は撚糸文Rの側面圧痕文が施されている。

16～97は前期前半の関山I式の深鉢形土器の破片である。

16～32、40は沈線文や貼付文などが施される土器である。19～23、27は1本沈線で文様が施文されるもので、古い様相を持つ土器である。19～23は並行沈線文間に刻みが施されている。27は波状に沈線文が施文されている。17は刻みを施す隆帯が貼付されている。16、17、24～26、28～32、40は半截竹管によって、文様が施文され土器である。16、17は斜状に沈線が施文された後、瘤状の貼付文が施されている。17は沈線文間に刻みが施されている。25、26はコンパス文が施文されている。28は口唇部に刺突文を巡らせ、その下に沈線が波



第20図 第4号住居跡出土遺物(2)

第7表 第4号住居跡出土石器観察表(第21図)

番号	器種	石材	長さ/cm	幅/cm	厚さ/cm	重さ/g	備考	図版
98	石鏃	黒曜石	1.3	1.2	0.3	0.3	SJ3・4 No.2	6-6
99	尖頭器	黒曜石	3.7	1.4	0.5	2.3	SJ3・4 No.1	6-7
100	打製石斧	頁岩	[3.3]	[4.2]	1.5	20.4	SJ3・4 No.4	6-8

第8表 第2号土壌諸元(第22図)

名称	グリッド	平面形	長軸方位	長軸×短軸/m	深さ/cm	重複遺構等
第2号土壌	D-2	隅丸長方形	N-6° -E	1.04×0.82	24	SJ1

状に施文されている。

33～39、41～65、70は、羽状縄文が施文され、ループ文が施される土器である。33～36は口縁部、他は胴部の破片である。33は補修孔が穿たれているが、左側は貫通しておらず、途中で右側方向に移動して孔を貫通させたと考えられる。

66、67は正反の合の縄文が施文されている。68、69は撚り戻しの縄文が施文されている。69～89は地文である縄文のみが施文される土器である。

86～89は前期中葉の黒浜式の深鉢形土器の口縁部破片である。

90～94は底部の破片である。底部は上げ底状に作られている。90、91、93は底面部分にも縄文が施文されている。

95～97は前期後半の諸磯b式の深鉢形土器の破片である。95、96は半截竹管による爪形文が施文されている。97は浮線文が施文されている。

第21図に第4号住居跡出土石器を示した。

98は黒曜石製の石鏃である。無茎で挟りが浅い。入念に加工している。99は無茎の尖頭器で基部が丸い。入念に加工しているため素材形状は不明である。

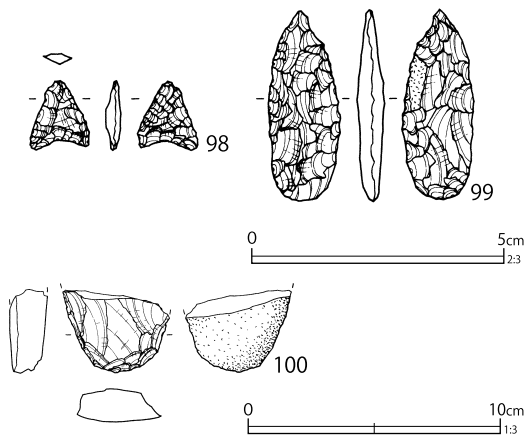
100は頁岩製の打製石斧である。分割礫を利用し、片面のみに加工を施している。刃部のみ残存する。

(2) 土壌 (第22図)

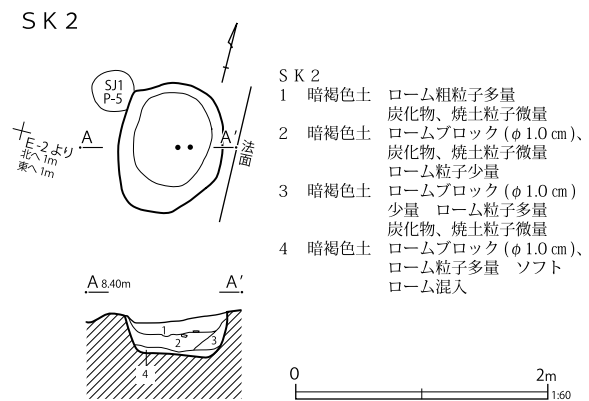
川崎遺跡からは土壌が8基検出されており、このうち縄文時代前期の土壌は1基である。

第22図に個別図、第8表に諸元をそれぞれ示した。

第2号土壌からは、遺物の出土が見られなかったが、遺物が出土した住居跡や土壌との覆土の対比から、年代の判定を行った。



第21図 第4号住居跡出土遺物(3)



第22図 第2号土壌

(3) ピット (第23、35図)

川崎遺跡の調査区内からは、ピットが18基検出された。この中で、15基が前期と考えられる。

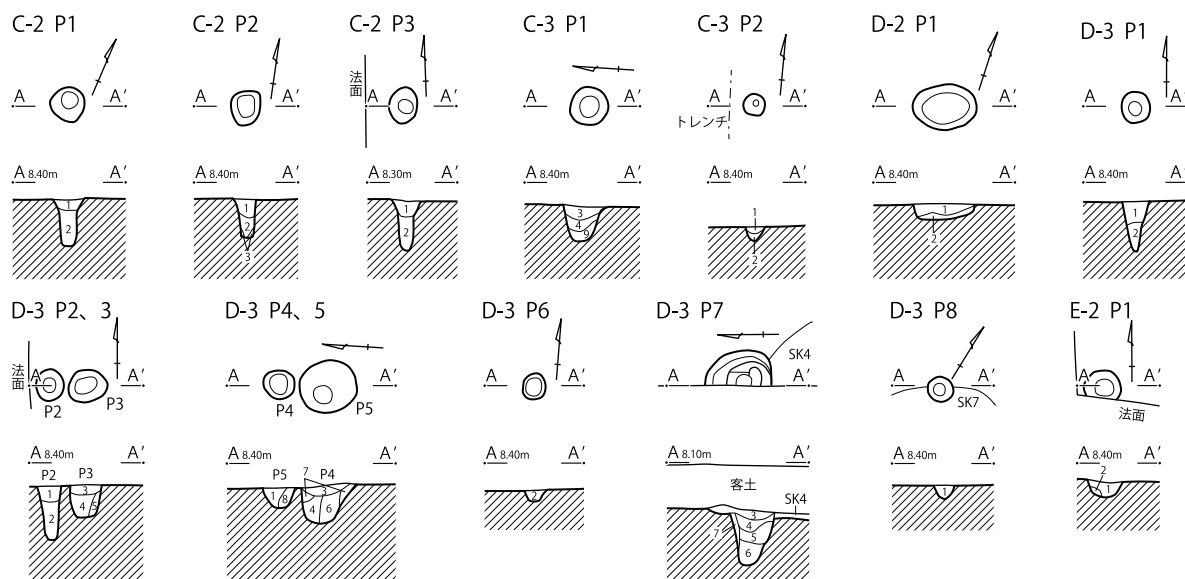
出土遺物は極めて少なく、明確にピットとの関連が想定できる、図示可能な遺物は認められな

った。

従って、ピットの時期は断定できないが、他の遺構と覆土の性状を対比した結果、縄文時代前期の可能性が高いと判断できたので、ここに一括して報告した。

第9表 ピット一覧表(第23、25図)

グリッド	番号	長径/cm	短径/cm	深さ/cm	グリッド	番号	長径/cm	短径/cm	深さ/cm
B3 (近世)	1	31	25	10	B3	1	31	25	10
	2	29	27	39		2	29	27	39
	3	23	11	25		3	23	11	25
C2	1	27	25	38	C2	1	27	25	38
	2	26	22	30		2	26	22	30
	3	28	23	17		3	28	23	17
C3	1	31	29	28	C3	1	31	29	28
	2	18	17	11		2	18	17	11
D2	1	57	36	12	D2	1	57	36	12



C-2 P1

- 1 暗褐色土 ローム粒子 (φ0.3~0.5cm) 多量 炭化物微量
- 2 暗褐色土 ローム粒子、焼土粒子 (φ0.3~5.0cm) 少量 炭化物微量

C-2 P2

- 1 暗褐色土 ロームブロック (φ1.0~2.0cm)、ローム粒子 (φ0.3~0.5cm) 多量
- 2 黒褐色土 ローム粒子 (φ0.3~0.5cm)、炭化物少量
- 3 褐色土 ロームブロック (φ1.0~2.0cm)、ローム粒子 (φ0.3~0.5cm) 多量

C-2 P3

- 1 暗褐色土 ローム粗粒子多量 ロームブロック (1.0~2.0cm) 微量 炭化物少量
- 2 暗褐色土 ローム粒子多量 炭化物微量

C-3 P2

- 1 暗褐色土 ローム粒子、炭化物少量
- 2 暗褐色土 ロームブロック (φ1.0~2.0cm) 少量、ローム粒子多量 炭化物少量

D-2 P1

- 1 黒褐色土 ローム粒子 (φ0.3~0.5cm) 多量 焼土粒子、炭化物微量
- 2 暗褐色土 焼土ブロック少量、ローム粒子 (φ0.3~0.5cm) 多量 焼土粒子微量

C-3 P1、D3 P1~7

- 1 暗褐色土 ロームブロック (φ2.0cm) 微量 ローム粒子少量 炭化物微量
- 2 暗褐色土 ソフトローム多量 ローム粒子多量
- 3 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5cm) 微量 ローム粒子少量
- 4 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5cm) 少量 ローム粒子多量
- 5 暗褐色土 ローム粒子少量
- 6 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5~1.0cm)、ローム粒子多量
- 7 暗褐色土 ソフトローム混入 ロームブロック (φ0.5cm)、ローム粒子多量
- 8 暗褐色土 ローム粒子少量
- 9 褐色土 ソフトローム主体

D-3 P8

- 1 暗褐色土 ローム粒子 (φ0.3cm)、炭化物粒子、焼土粒子微量

E-2 P1

- 1 暗褐色土 ローム粒子 (φ0.5cm) 少量 炭化物微量
- 2 褐色土 ロームブロック多量 壁の崩落土



第23図 ピット

(4) グリッド出土遺物 (第24図)

1～14は前期前半の関山I式の深鉢形土器である。1、2は半截竹管によって平行沈線文が施文された後に、瘤状の貼付文が施されている。3～5は半截竹管によって結節沈線文が施文されている。6～13は地文のみが施文される胴部の破片である。14は底部の破片である。

15は前期後半の諸磯b式の深鉢形土器の胴部破片である。地文のみが残るもので、単節RLの縄文が施文されている。

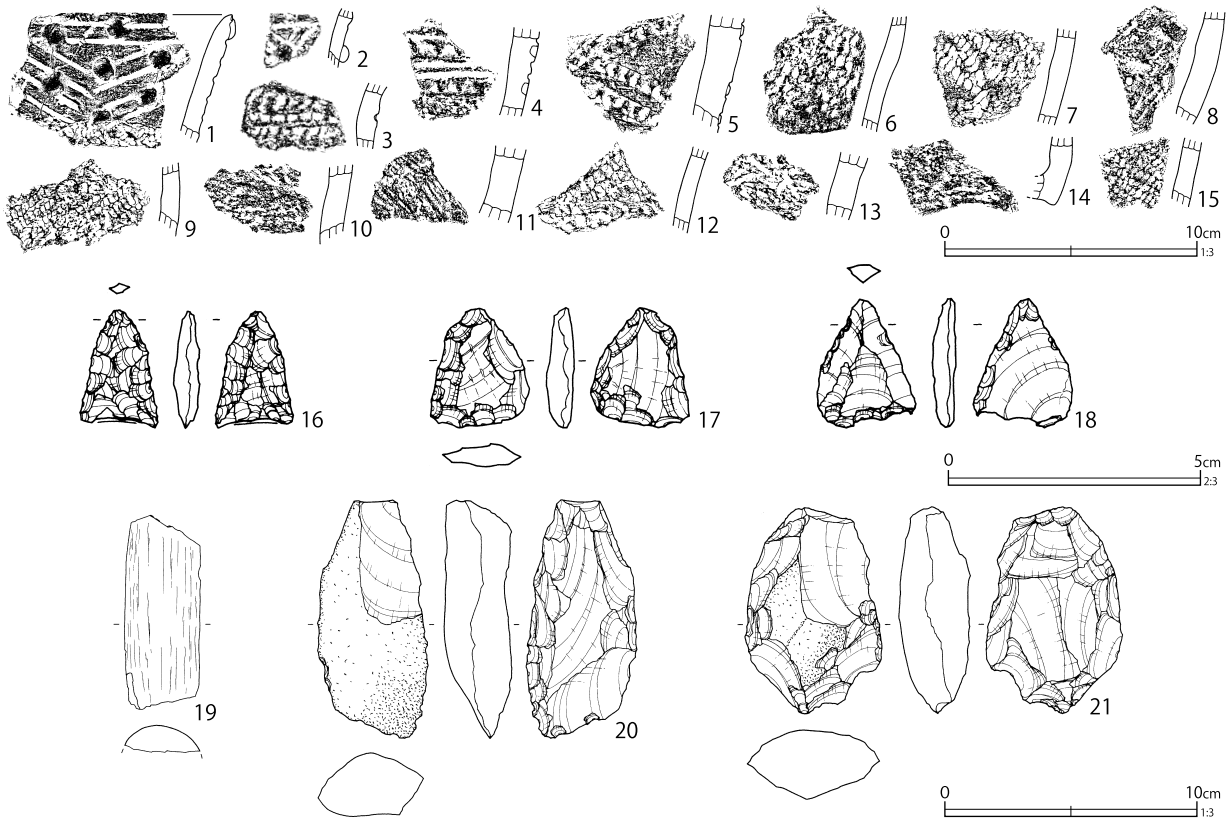
16～18はチャート製の石鏃である。16は基部が僅かに抉られている。17は基部が丸くなっている。1次剥離面を残し、未製品の可能性がある。18は無茎で抉りが浅く、剥片に僅かに加工を施したものである。

19は緑泥片岩製で、石棒の可能性が考えられる。

20、21は打製石斧である。20はホルンフェルス製で、分割礫の片面を加工している。21は頁岩製で、分割礫を用い、両面を加工している。

第10表 グリッド出土石器観察表(第24図)

番号	器種	石材	長さ/cm	幅/cm	厚さ/cm	重さ/g	備考	図版
16	石鏃	チャート	2.3	1.6	0.5	1.4	SJ3	6-9
17	石鏃	チャート	2.5	2.0	0.5	1.9	E-2	6-10
18	石鏃	チャート	2.3	2.0	0.5	2.8	SJ6 1区 掘り方	6-11
19	石棒	緑泥片岩	[7.7]	[3.0]	[1.2]	42.9	被熱	6-12
20	打製石斧	ホルンフェルス	9.4	4.4	2.7	118.9	SJ6 掘り方 No.12	6-13
21	打製石斧	頁岩	8.2	5.4	2.8	126.4	SJ1 3区 A 被熱	6-14



第24図 グリッド出土遺物

3. 古代の遺構と遺物

古代の遺構は、奈良時代の住居跡が3軒検出された。

(1) 住居跡

第1号住居跡 (第26、27図)

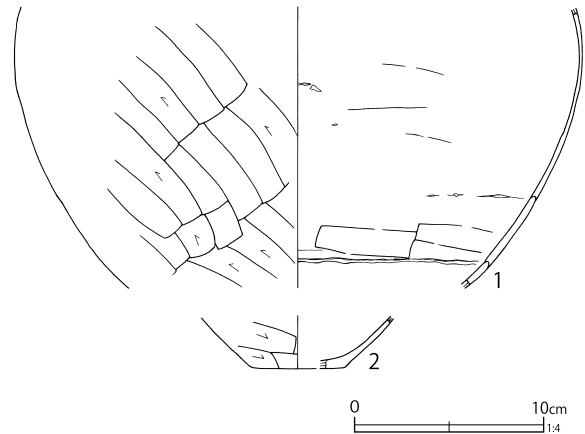
第1号住居跡は、D-1グリッドから検出された。

他遺構との重複は、第3号炉穴と第2号土壇を壊していた。

平面形態は方形と推定した。

規模は主軸長3.0m、副軸残存長3.6m程度で、深さ約10cm程度、主軸方位はN-19° -Wである。

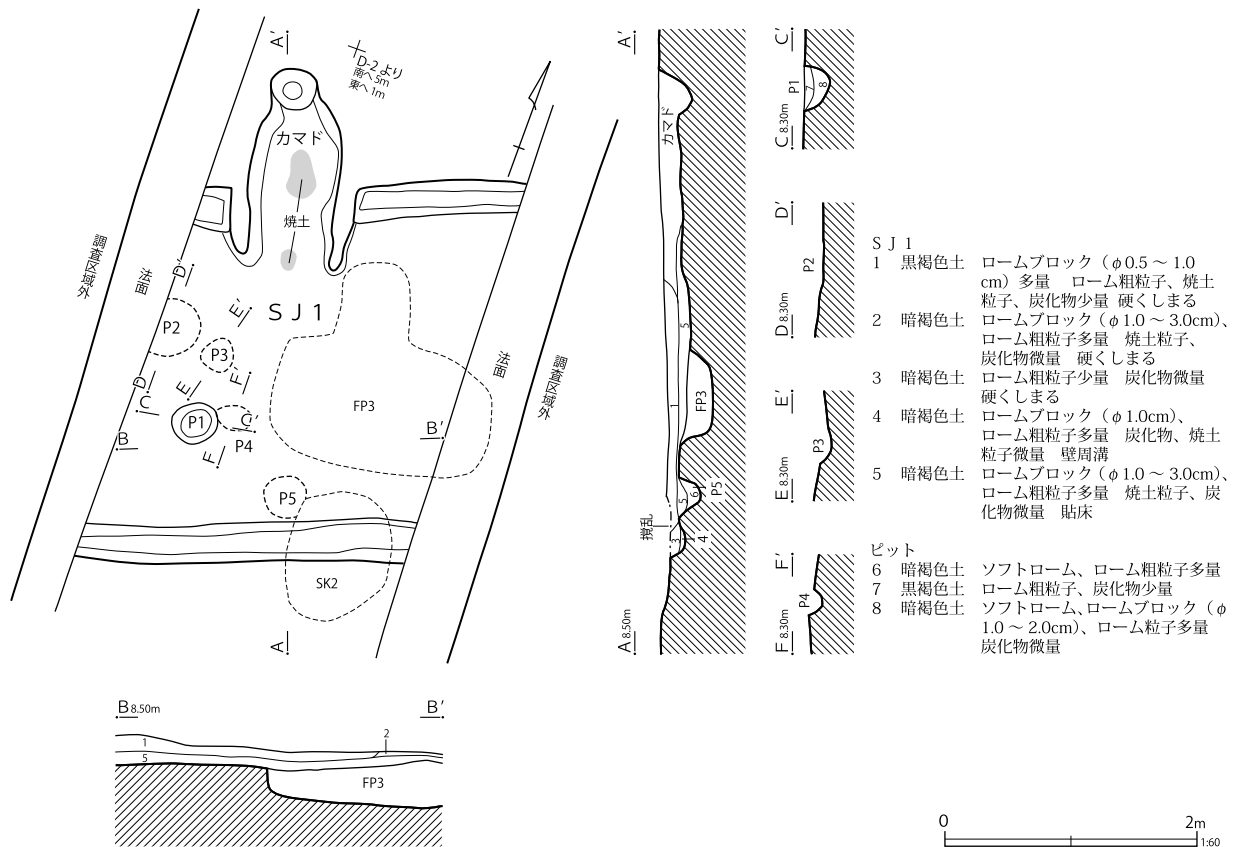
カマドは、住居の北側から検出された。カマドの袖は、一部に灰白色粘土が残存していた。



第25図 第1号住居跡出土遺物

第11表 第1号住居跡出土遺物観察表(第25図)

番号	種別	器種	口径/cm	器高/cm	底径/cm	胎土	残存	焼成	色調	図版	備考
1	土師器	甕	—	【14.8】	—	ABDEFGH	40	普通	明赤褐色	6-15	
2	土師器	甕	—	【2.7】	5.0	ABDEF	10	普通	にぶい褐色	6-16	

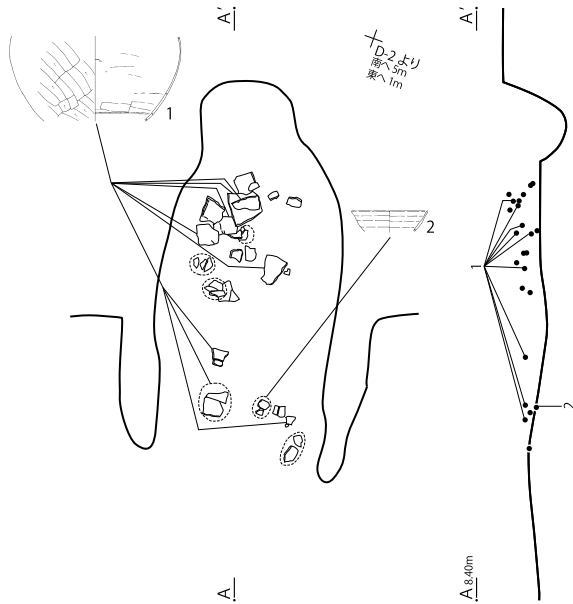


第26図 第1号住居跡(1)

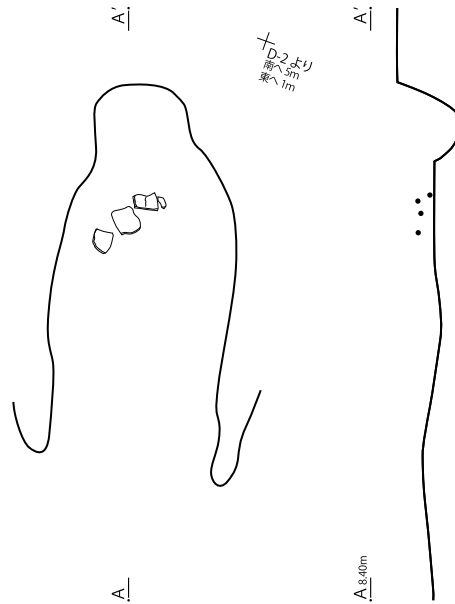
カマド内からは、土師器甕破片が出土した。
床面からは、5本の浅いピットが検出された。
第25図に出土遺物を示した。

1、2は、土師器の甕である。外面にはヘラケ
ズリが見られ、器肉は薄い。
時期は8世紀後半と考えられる。

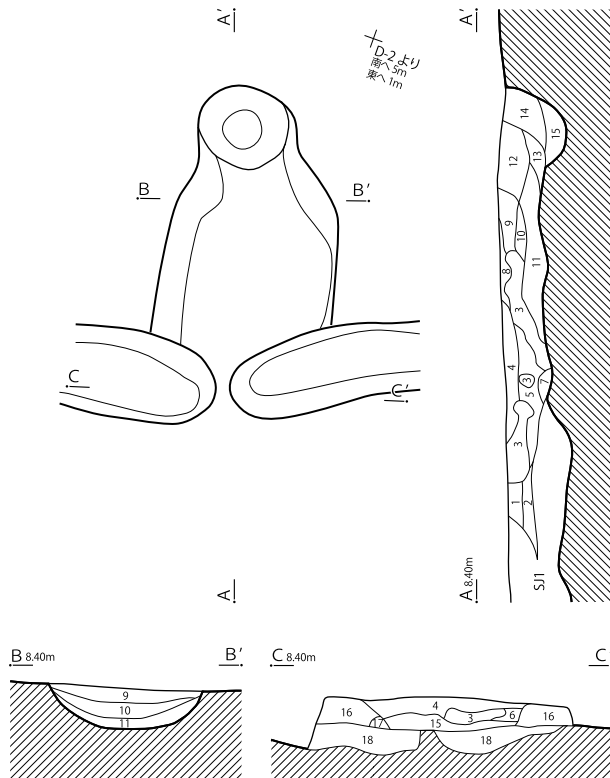
S J 1 カマド遺物出土状況 一面



S J 1 カマド遺物出土状況 二面



S J 1 カマド掘り方



S J 1 カマド

- 1 黒褐色土 ロームブロック、ローム粒子少量 炭化物、焼土粒子微量
- 2 黒褐色土 ロームブロック、炭化物少量 ローム粒子多量 焼土粒子微量
- 3 灰褐色土 灰白色粘土主体の層 カマド天井部の一部 炭化物、焼土粒子少量
- 4 黒褐色土 白色粘土ブロック状に少量 炭化物、ローム粒子、焼土粒子少量
- 5 黒褐色土 ローム粗粒子多量 焼土ブロック(φ1.0cm)微量 炭化物、焼土粒子少量
- 6 黒褐色土 ローム粗粒子、炭化物少量 焼土粒子微量
- 7 黒褐色土 灰白色粘土ブロック(φ1.0cm)微量 ローム粗粒子、炭化物少量 焼土粒子微量
- 8 黒褐色土 灰白色粘土ブロック ローム粗粒子、炭化物、焼土粒子少量
- 9 黒褐色土 ローム粗粒子微量 炭化物、焼土ブロック(φ1.0~2.0cm)、焼土粒子少量
- 10 黒褐色土 ロームブロック(粗)、炭化物少量 焼土ブロック(φ1.0cm)、焼土粒子多量
- 11 黒褐色土 ローム粗粒子、炭化物少量 焼土ブロック(φ1.0cm)少量 焼土粒子多量
- 12 黒褐色土 ローム粗粒子微量 焼土ブロック(φ1.0~2.0cm)、焼土粒子多量 焼土化した壁の一部がブロック状に多量 天井部の一と考えられる
- 13 黒褐色土 ローム粗粒子少量 炭化物少量 焼土粒子微量
- 14 黒褐色土 ローム粗粒子、炭化物微量 焼土ブロック(φ1.0cm)微量 煙出し部分と考えられる
- 15 暗褐色土 ロームブロック(φ1.0cm)少量 ローム粒子多量 焼土粒子少量
- 16 暗褐色土 ロームブロック、灰白色粘土ブロック少量 ローム粒子、灰白色粘土粒子多量
- 17 灰褐色土 灰白色粘土ブロック 粘土は袖の内側に貼り付いていたと考えられる
- 18 暗褐色土 ロームブロック(φ1.0~2.0cm)、ローム粒子多量 炭化物微量 壁周溝の埋戻し土

第27図 第1号住居跡(2)

第3号住居跡 (第29, 30図)

第3号住居跡は、B、C-2グリッドから検出された。

他住居跡との重複関係は、第4号住居跡を壊していた。

覆土は、自然堆積と考えられる。

平面形態は方形と推定した。

規模は、長軸長4.8m、残存短軸長2.1m程度で、深さ約20cm、主軸方位はN-7° -Eである。

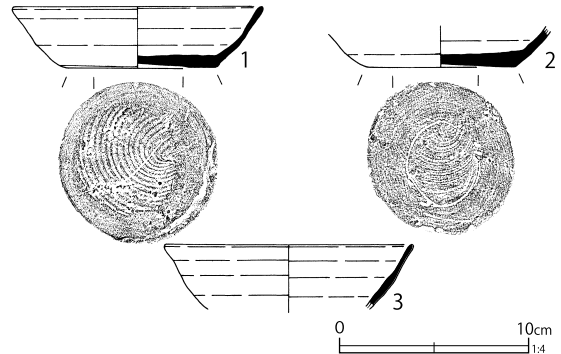
カマドは検出されなかった。

床面からは、4本のピットが検出された。

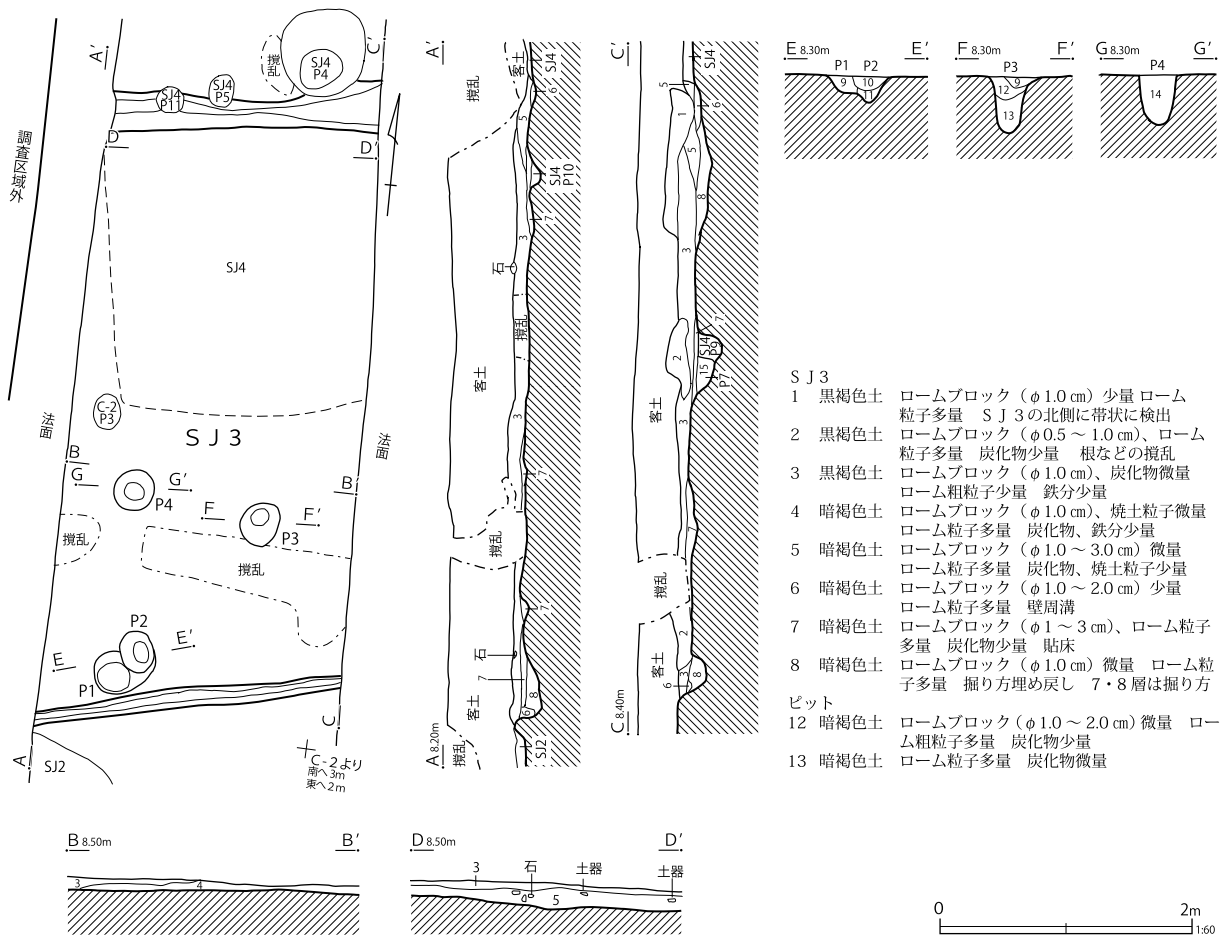
住居跡の掘り方は、不整形な長方形であった。

壁面の一部に鉄分の沈着が見られた。

第3号住居跡は、縄文時代前期の第4号住居跡を壊して造られているため、覆土中には、第4号



第28図 第3号住居跡出土遺物



第29図 第3号住居跡(1)

第12表 第3号住居跡出土遺物観察表(第28図)

番号	種別	器種	口径/cm	器高/cm	底径/cm	胎土	残存	焼成	色調	図版	備考
1	須恵器	坏	(13.0)	3.2	8.4	ABEG	60	普通	灰	6-19	
2	須恵器	坏	—	[2.1]	8.0	ABEFGH	50	普通	灰	6-18	
3	須恵器	坏	(13.0)	[3.4]	—	ABEFH	20	普通	灰	6-17	

住居跡に帰属すると考えられる縄文土器が多く含まれていた。これらについては、第4号住居跡の遺物として報告した。

また、住居跡の床面付近からは大量の礫が出土した。住居の廃絶時に投棄された可能性が考えられる。

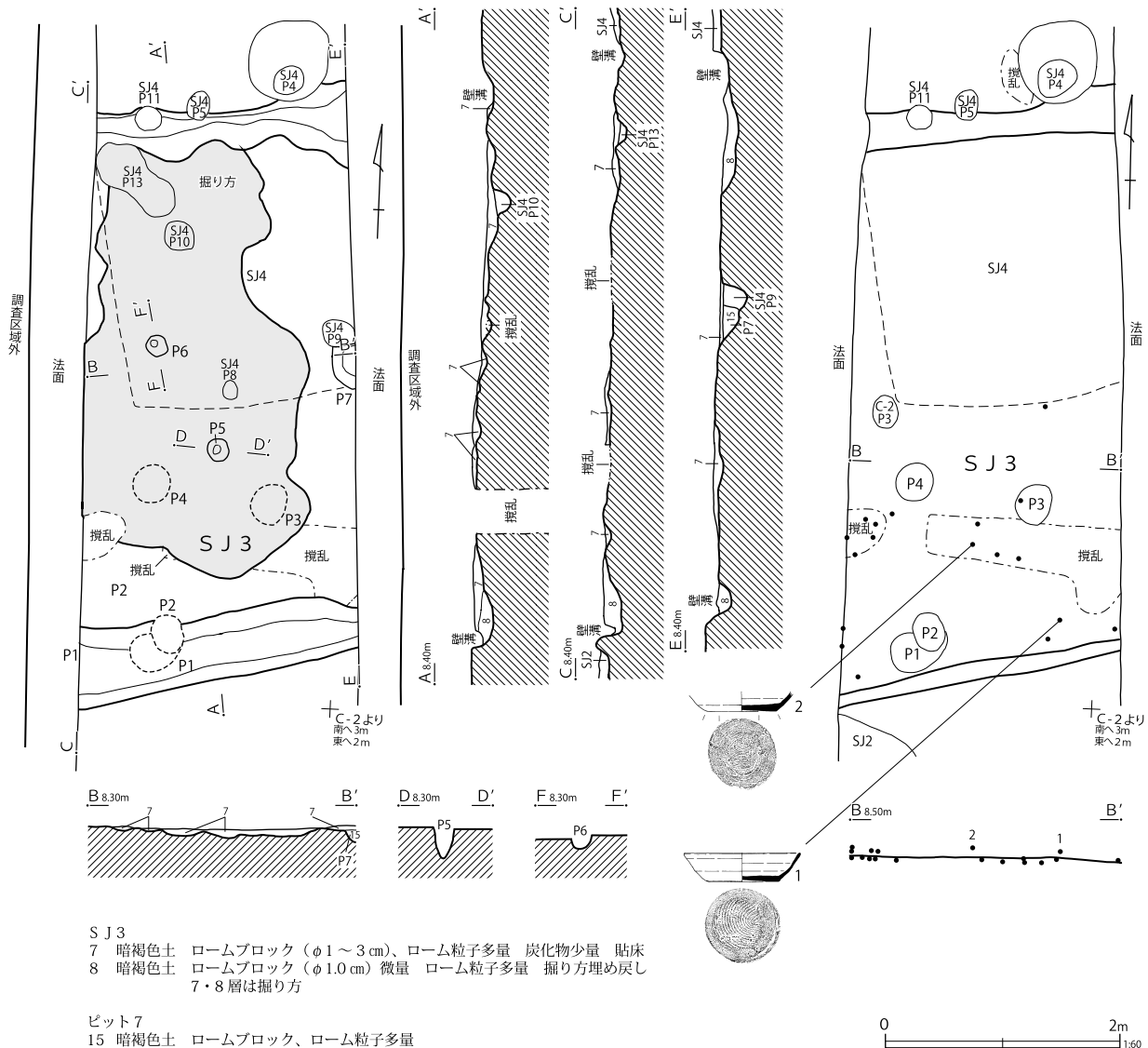
第28図に出土遺物を示した。

1～3は須恵器坏である。

S J 3掘り方

1は60%程度残存しており、底部外周にはヘラケズリが見られ、底部外面中央に「×」状のヘラ記号が認められる。2は底部を中心とした破片であり、底部外周にはヘラケズリが見られ、底部外面中央に「○」状のヘラ記号が認められる。いずれも南比企産の製品と考えられる。3は口縁部破片である。

時期は8世紀後半と考えられる。



第30図 第3号住居跡(2)

第6号住居跡 (第31、32図)

第6号住居跡は、B、C-3グリッドから検出された。

他住居跡とは重複せず、他遺構との重複関係は、

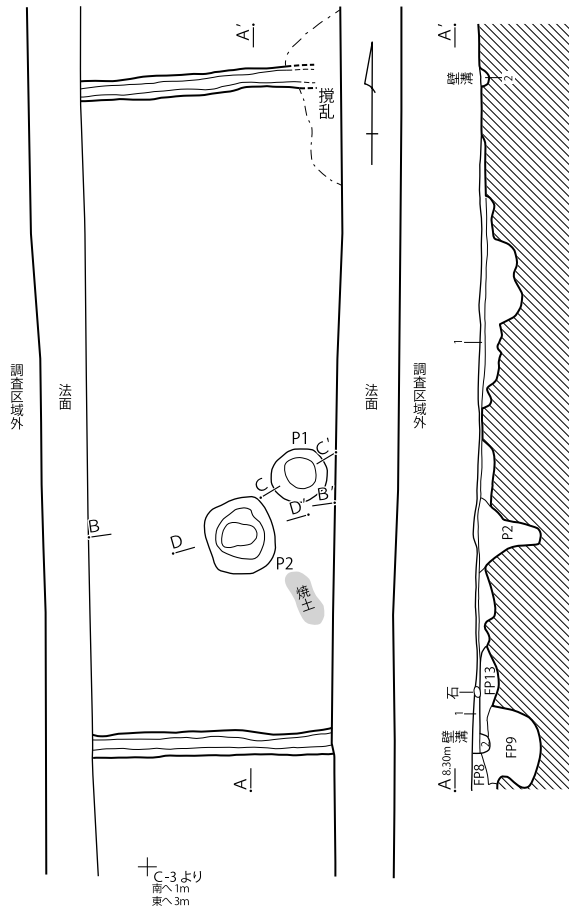
第8、9、12、13号炉穴を壊していた。

覆土は、自然堆積と考えられる。

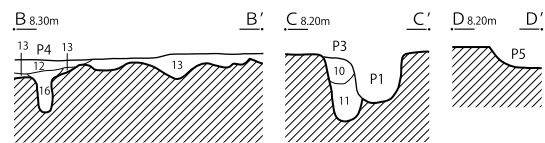
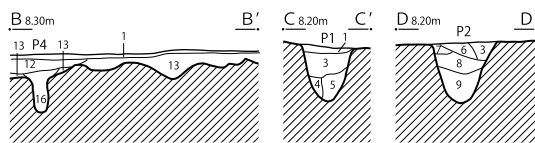
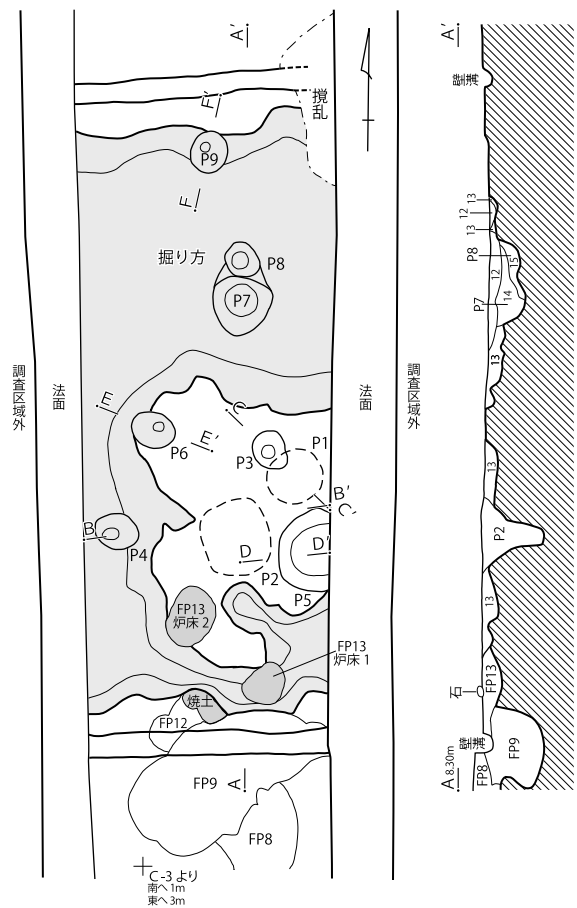
平面形態は方形と推定した。

規模は、長軸長5.4m、残存短軸長2.0m程度で、

S J 6

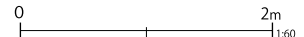
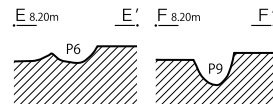


S J 6掘り方



S J 6

- 1 黒褐色土 ロームブロック (φ1.0 cm) 炭化物、焼土粒子少量
ローム粗粒子多量 ほぼ床面に近い
- 2 黒褐色土 ローム粗粒子、焼土粒子少量 炭化物微量 1層より
黒色強い 壁周溝
- 3 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5 ~ 1.0 cm)、ローム粗粒子多量
炭化物微量
- 4 暗褐色土 ローム粗粒子多量 炭化物微量 柱痕か
- 5 褐色土 ローム多量に混入し間に縞状の黒色土 しまりよし
- 6 黒褐色土 ローム粗粒子少量 炭化物微量
- 7 暗褐色土 ローム粗粒子少量 炭化物、焼土粒子微量
- 8 暗褐色土 ローム粗粒子多量 炭化物 黒色土 (φ1.0 cm) ブロ
ック状に少量 焼土粒子微量
- 9 暗褐色土 ロームブロック (φ1.0 cm)、炭化物、焼土粒子微量
ローム多量に混入 ソフトローム多量に混入
- 10 暗褐色土 ローム粗粒子多量 炭化物少量 焼土粒子微量 ソフト
ローム多量に混入 黒褐色土がブロック状に混入

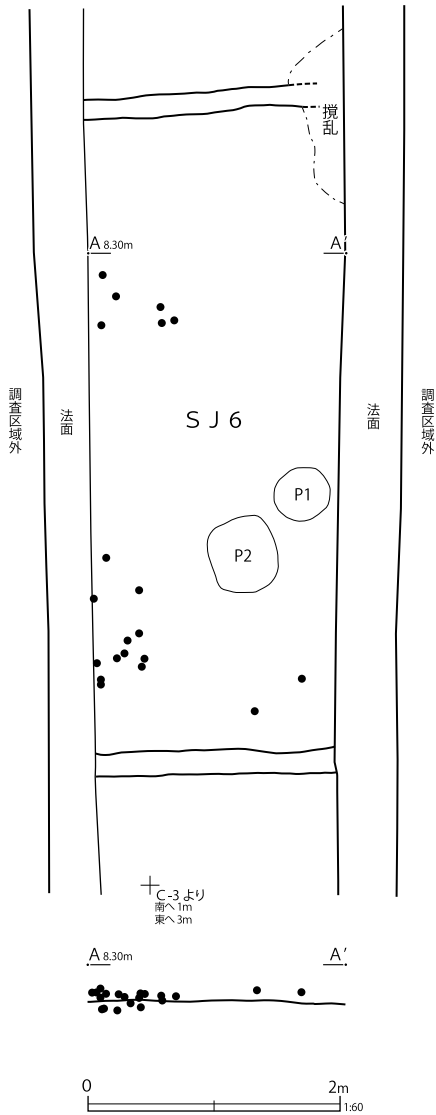


- 11 暗褐色土 ローム粗粒子多量 ソフトローム多量に混入
- 12 黒褐色土 ロームブロック (φ0.5 ~ 1.0 cm)、ローム粗粒子、炭化物
少量
- 13 暗褐色土 ロームブロック (φ0.5 ~ 1.0 cm)、ローム粗粒子多量
- 14 黒褐色土 ロームブロック (φ0.5 ~ 5.0 cm)、ローム粗粒子多量
炭化物少量 焼土粒子微量 一挙に埋め戻し
- 15 黒褐色土 ローム粗粒子少量 炭化物、焼土粒子微量
- 16 黒褐色土 ローム粗粒子、炭化物少量 焼土粒子微量 掘り方下から
検出されたピット

第31図 第6号住居跡

第13表 第6号住居跡出土遺物観察表(第33図)

番号	種別	器種	口径/cm	器高/cm	底径/cm	胎土	残存	焼成	色調	図版	備考
1	須恵器	坏	—	[1.8]	(8.0)	ABEH	25	普通	灰		



第32図 第6号住居跡遺物出土状況

深さ約20cm、主軸方位はN-0°である。

カマドは検出されなかった。

床面からは、9本のピットが検出された。この中で、P2、P3が比較的深く、住居との関係が考えられる。

住居跡の掘り方は、ほぼ全面に及んでいた。

第6号住居跡は、縄文時代早期の炉穴を壊して作られているため、覆土中には、炉穴に帰属すると考えられる縄文土器が含まれていた。これらについては、炉穴の遺物として報告した。

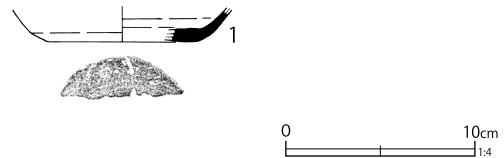
また、住居跡の床面付近からは大量の礫が出土した。住居の廃絶時に投棄された可能性が考えられる。

第33図に出土遺物を示した。

1は須恵器坏の底部を中心とした小破片である。底部外周にはヘラケズリが見られる。

南比企産の製品と考えられる。

時期は8世紀後半と考えられる。



第33図 第6号住居跡出土遺物

4. 近世の遺構と遺物

近世の遺構は、畝跡が1箇所、溝跡が1条、ピットが3基検出された。いずれも図示可能な遺物は含まれていなかった。

調査区内は表土が削平されていたため、近世遺物は、ほとんど残存していなかった。表土から泥メンコが出土したので図示した。

(1) 畝跡 (第34図)

畝跡は、A-3グリッドから検出された。

南北方向の4本の溝から構成されている。各溝は完全には平行していない。右側の3本は、放射状に配置されている。

覆土は溝付近の表土と類似している。

(2) 溝跡 (第36図)

溝跡は、A-1、2グリッドから検出された。

走向方位はN-79° -Eで、調査区にやや直交ぎみである。幅は、底面で1 m程度、中端で2 m程度である。上端は、南側は検出されているが、北側は調査区外に延びており、なだらかに4 m以上であると考えられる。

溝付近では、近世の表土層が残されており、溝の覆土が近世の表土層と類似していたため、年代を近世と比定した。

図示可能な遺物は、検出されなかった。

いずれも調査区の北側に存在している。

覆土から時期を判断した。

(4) グリッド出土遺物 (第37図)

表土から、泥メンコが出土した。

動物の顔面が描写されているが、種は不明である。右耳を僅かに欠損するが略完形で、髭と眉毛の表現に特徴が見られる。背面は指頭圧によりやや丸みを帯びて平滑に仕上げられている。

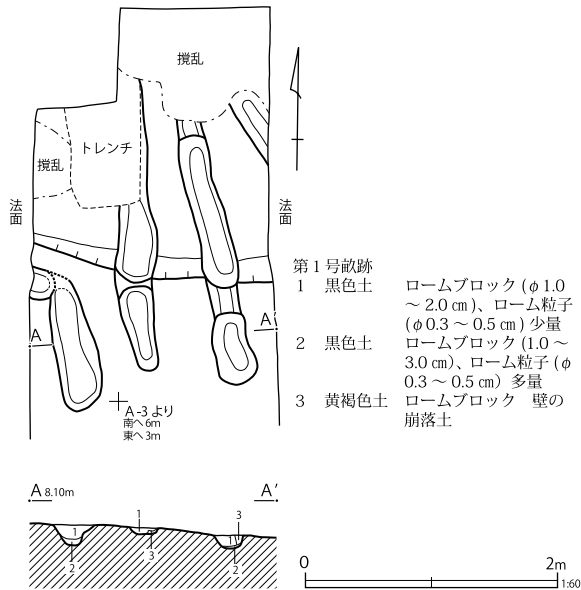
胎土は砂粒が見られず精選されており、雲母と考えられる微粒子が認められる。色調は橙褐色である。

焼成は良好で、やや堅緻である。

(3) ピット (第35図)

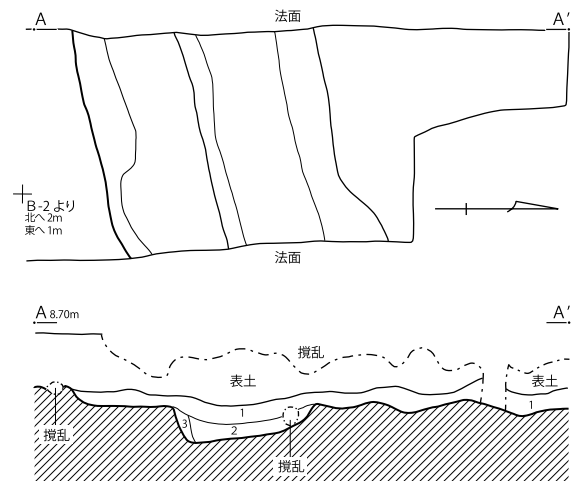
近世と考えられるピットは3基検出されており、

第1号畝跡



第34図 第1号畝跡

SD 1



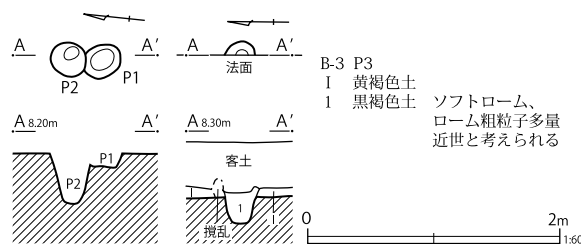
SD 1

- | | | |
|----|-------|--|
| 表土 | 暗褐色土 | ローム粒子 (φ 0.3-0.5 cm)、砂質小礫多量 焼土粒子、炭化物微量 |
| 1 | 暗褐色土 | ロームブロック (φ 1.0 ~ 2.0 cm) 少量 ローム粒子 (φ 0.3-0.5 cm)、砂質小礫多量 炭化物、焼土粒子微量 |
| 2 | やや暗い土 | ローム粒子 (φ 0.3-0.5 cm) 多量 砂質小礫、炭化物、焼土粒子少量 |
| 3 | やや暗い土 | ロームブロック (φ 1.0 ~ 3.0 cm) 多量 壁の崩落土 |

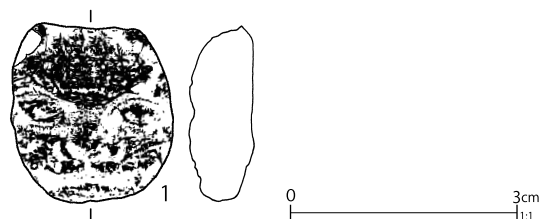
第36図 第1号溝跡

B-3 P1、2

B-3 P3



第35図 ピット



第37図 グリッド出土遺物

V 調査のまとめ

過去40回以上にわたる調査によって、川崎遺跡からは、縄文時代早期の集落と炉穴、前期の集落、奈良時代、平安時代の集落などが見つかっている。

縄文時代早期の炉穴は、条痕文期のものであり、主として茅山上層期のものが大半を占めると考えられる。早期の第5号住居跡も同様な時期である。

過去の調査で遺構の分布密度が高かったのは、台地の中央から北西側であった。しかし、台地の北東端にあたる今回の調査範囲でも、早期や前期の遺構が比較的濃密に検出されたことから、台地の北東側でも活発な活動が行われていたことがわかった。

なお、宮崎、金子の指摘するように、川崎遺跡宅地添A地区で茅山上層期の不整長台形と考えられる住居跡が検出されており、今回検出された第5号住居跡についても、平面形態が長台形である可能性が考えられる。不整長台形の住居跡について、宮崎らは生業と定住化との関連から、集団化の進展としてとらえ、あるいは炉穴の減少と屋内の炉の定式化を想定している。川崎遺跡の既存の成果と、今後の調査によって得られる資料は、縄

文時代早期社会の内容や地域差を考える際に、重要である。

縄文時代前期では、花積下層期から黒浜期にかけて、縄文海進の影響によって台地崖線下からさほど遠くない地点まで、海岸線が迫っていたため、海洋資源にある程度依存した集落が営まれていたと考えられる。

海進が海退に転じた諸磯期以降では、海洋資源の利用が困難になったため、当該台地上での人的な活動が急激に縮小したようで、遺物は極めて少ない。川崎遺跡から南東に2.5kmほど離れた鷺森遺跡が諸磯期の比較的大規模な集落である。

その後、しばらくの間は、川崎遺跡では人的な活動が疎らである。

奈良時代から平安時代にかけては、台地崖線下の低地を耕作対象とした集落が、川崎遺跡に造られるようになり、再び遺構が増加する。

その後の中世や近世については、道路工事の際に表土が削平されたため、その痕跡はほとんど残されていない。

参考文献

- 笹森健一他 1979 『ハケ遺跡C地区』 埼玉県上福岡市ハケ遺跡調査会
笹森健一他 1987 『鷺森遺跡の調査』 上福岡市教育委員会
笹森健一他 H13 『上福岡市権現山墳墓群等調査報告書』 上福岡市教育委員会
笹森健一他 2014 『埼玉県ふじみ野市 市内遺跡群10』 ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第11集 ふじみ野市教育委員会
笹森健一他 2014 『埼玉県ふじみ野市 市内遺跡群11』 ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第12集 ふじみ野市教育委員会
笹森健一他 2014 『埼玉県ふじみ野市 市内遺跡群12』 ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第13集 ふじみ野市教育委員会
笹森健一他 2015 『埼玉県ふじみ野市 市内遺跡群13』 ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第14集 ふじみ野市教育委員会
鍋島直久他 2015 『埼玉県ふじみ野市 市内遺跡群14』 ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第15集 ふじみ野市教育委員会
宮崎朝雄 金子直行 2015 「縄文早期条痕文期の竪穴住居と炉穴の関係」『縄文時代』26号 縄文時代文化研究会

写真図版



1 調査区1区全景 (南から)



5 第5号住居跡炉跡 (西から)



2 調査区2区全景 (南から)



6 第2号住居跡 (南から)



3 第5号住居跡 (南西から)



7 第4号住居跡 (南から)



4 第5号住居跡遺物出土状況 (南西から)



8 第4号住居跡遺物出土状況 (南から)

図版 2



1 第1号炉穴 (南から)



7 第7号炉穴 (東から)



13 第3号土壙 (東から)



2 第2号炉穴 (東から)



8 第14号炉穴 (西から)



14 第4号土壙 (東から)



3 第3号炉穴 (南から)



9 第8～13、15号炉穴 (東から)



15 第5号土壙 (東から)



4 第4号炉穴 (東から)



10 第8～13、15号炉穴掘り方 (東から)



16 第6号土壙 (東から)



5 第5号炉穴 (西から)



11 第1号土壙 (南から)



17 第7号土壙 (北から)



6 第6号炉穴 (東から)



12 第2号土壙 (南から)



18 第8号土壙 (西から)



1 第3号住居跡遺物出土状況(南から)



3 第1号畝跡(北から)



5 第1号住居跡(南から)



2 第6号住居跡(南から)



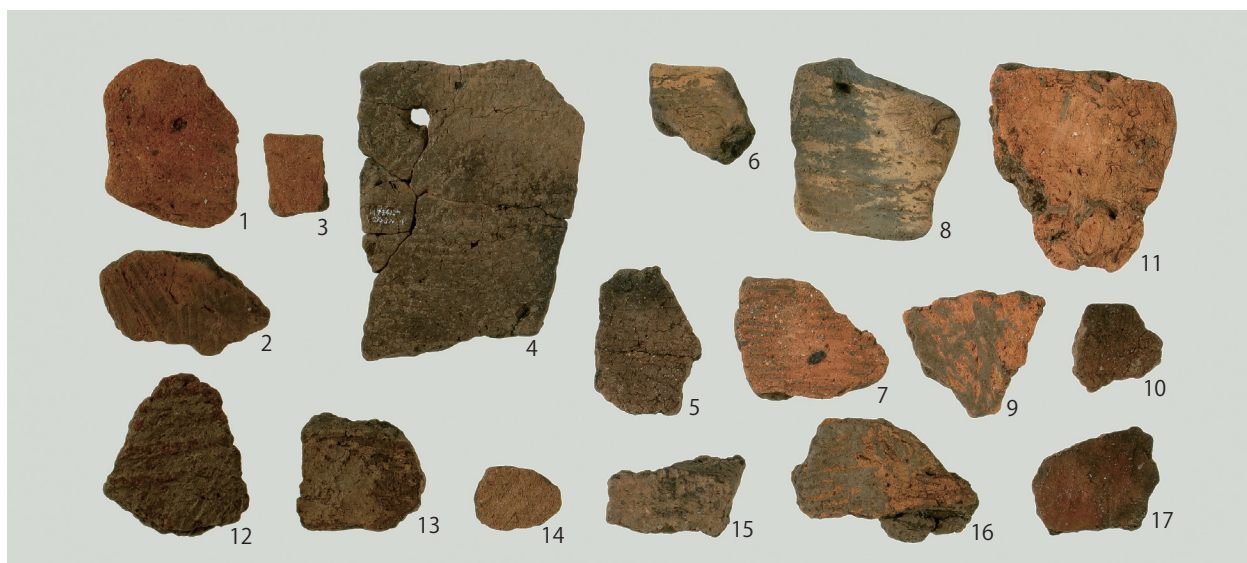
4 第1号溝跡(北から)



6 第1号住居跡カマド遺物出土状況



7 第5号住居跡出土遺物(第6図)



8 第1、3、8号土壇出土遺物(第13図)

図版 4



1 第1、3、6、8、9、10、14号炉穴出土遺物（1）（第9図）



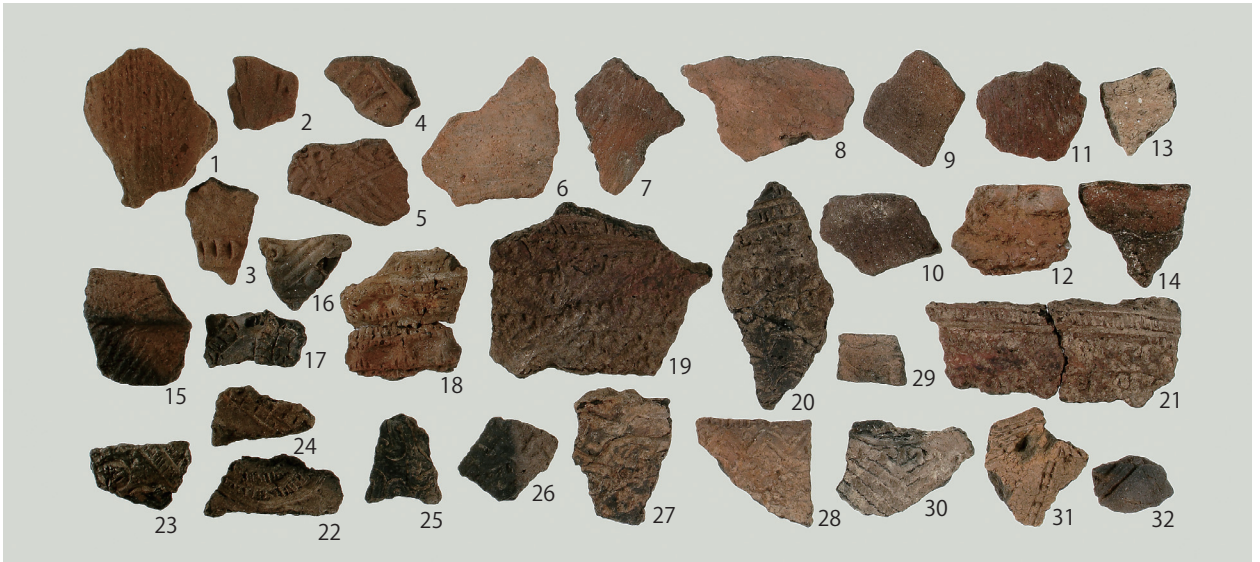
2 第1、3、6、8、9、10、14号炉穴出土遺物（2）（第9図）



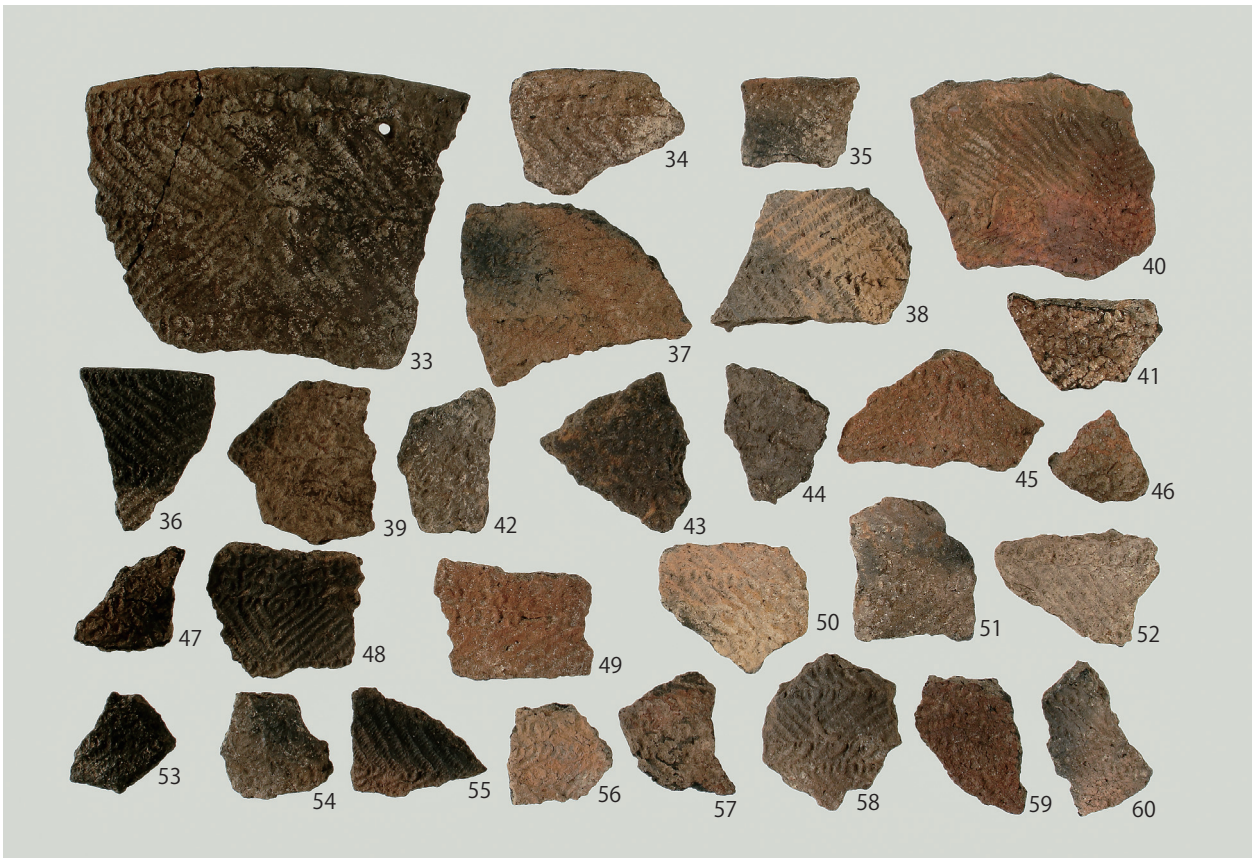
3 グリッド出土縄文時代早期遺物（第14図）



1 第2号住居跡出土遺物 (第15图)

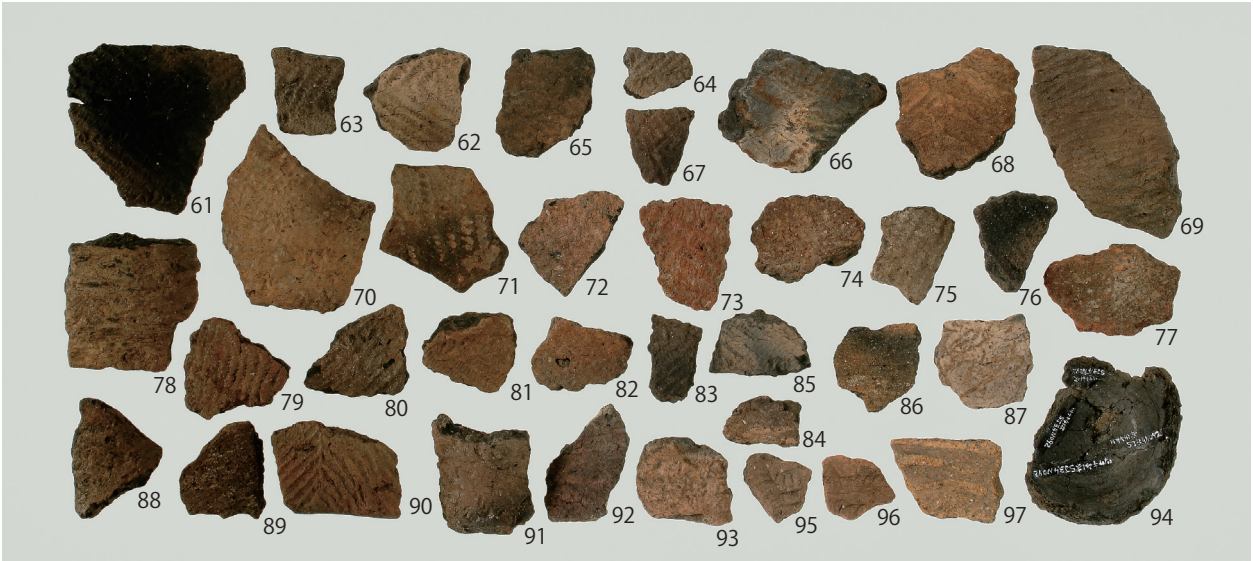


2 第4号住居跡出土遺物 (1) (第19图)



3 第4号住居跡出土遺物 (2) (第19图)

図版 6



1 第4号住居跡出土遺物 (第20図)



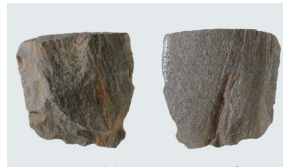
2 グリッド出土縄文時代前期遺物 (第24図)



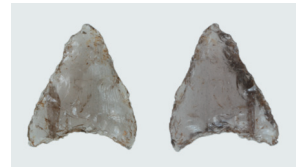
3 第5号住居跡 (第6図33)



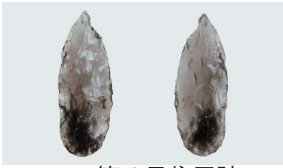
4 第5号住居跡 (第6図34)



5 第2号住居跡 (第16図8)



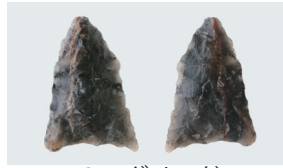
6 第4号住居跡 (第21図98)



7 第4号住居跡 (第21図99)



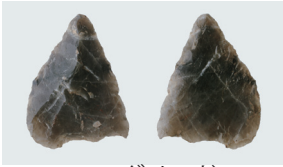
8 第4号住居跡 (第21図100)



9 グリッド (第24図16)



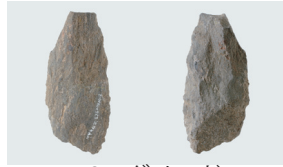
10 グリッド (第24図17)



11 グリッド (第24図18)



12 グリッド (第24図19)



13 グリッド (第24図20)



14 グリッド (第24図21)



15 第1号住居跡 (第25図1)



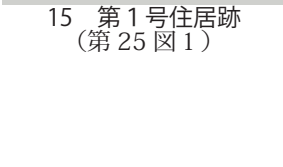
17 第3号住居跡 (第28図3)



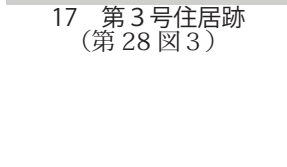
18 第3号住居跡 (第28図2)



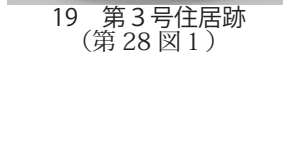
20 グリッド (第37図1)



16 第1号住居跡 (第25図2)



19 第3号住居跡 (第28図1)



18 第3号住居跡 (第28図2)

報告書抄録

ふりがな	かわさきいせき							
書名	川崎遺跡第41次							
副書名	街路整備工事（埋蔵文化財発掘調査報告書作成業務委託）埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第420集							
編著者名	大屋道則							
編集機関	公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1 TEL 0493-39-3955							
発行年月日	西暦2016（平成28）年3月25日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
かわさきいせき 川崎遺跡	さいたまけん のし 埼玉県ふじみ野市 おおあざかわさき 大字川崎218-1番 地他	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "	20140801 ～ 20141031	419	街路整備
11245	003	35° 52' 58"	139° 31' 41"	調査期間		調査面積	調査原因	
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
川崎遺跡	集落跡	縄文時代	住居跡 3軒 炉穴 15基 土壇 8基 ピット 15基	縄文土器 石器		縄文時代早期茅山上層期の竪穴住居跡が1軒検出された。縄文時代早期田戸下層期から鶺鴒ガ島台期の炉穴15基が検出された。縄文時代早期の住居跡と同時期の炉穴が至近距離から検出された集落は、県内でも少ない。縄文時代前期では、関山期と黒浜期の住居跡をそれぞれ1軒検出した。奈良時代の住居跡からは、土師器、須恵器が出土した。		
		奈良時代	住居跡 3軒	土師器 須恵器				
		近世	溝跡 1条 畝跡 1箇所 ピット 3基	泥メンコ				
要約								
<p>川崎遺跡は武蔵野台地の北東端、いわゆる川崎台に立地している。川崎遺跡の調査は、ふじみ野市（旧上福岡市）教育委員会によって、宅地造成などに伴う事前調査として、試掘を含め、過去40回以上行われており、同教育委員会より報告書が刊行されている。今回は、街路整備に伴い、当事業団が2014年に発掘調査を実施した。本書は、第41次調査の報告書である。</p> <p>川崎遺跡は、縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。</p> <p>今回の調査地点では、縄文時代、奈良時代、近世の遺物、遺構が検出された。</p> <p>縄文時代は、早期から前期にかけての集落跡が検出された。奈良時代では、8世紀代の集落跡が検出された。近世では、溝跡や畝跡など主として農業生産に関わる遺構が検出された。</p>								

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第420集

川崎遺跡 第41次

街路整備工事（埋蔵文化財発掘調査報告書作成業務委託）
埋蔵文化財発掘調査報告

平成28年3月22日 印刷

平成28年3月25日 発行

発行／公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1
電話0493(39)3955

<http://www.saimaibun.or.jp>

印刷／株式会社 文化新聞社